

ヒト幹細胞オールインワン生美容液
『ハダキララ』の開発者が明かす

100%確実に 素肌が今より 美しくなれる方法

この本には『ハダキララ』が最短最速で美肌に効く
ヒミツが隠されています。

これを読めば、スキンケアの本質に驚くでしょう。

あなたの 10年後の肌年齢マイナス20歳を達成するために、
ご一読いただければ幸いです。

藤井一良

株式会社 HappyLifeBio 代表取締役

HappyLifeBio 出版



まえがき

日本女性の4人に3人が乾燥肌で、3人に1人が敏感肌だと言われています。このような不健康な肌の女性が、なぜこれほど多くなったのか？いろいろな要因はありますが、それはあまりにも化粧品に依存しすぎたスキンケアが最大の原因だと私は思います。

5年ほど前のこと、私は日本国内にある美容クリニックと提携して、美肌菌ドックという肌質と皮膚常在菌の検査プログラムをはじめました。それが話題になり、スキンケアに人一倍気を使っている女性たちがたくさんその検査に申し込みました。肌トラブルはとくに感じていない女性ばかりでした。

そんな女性たちの肌を皮膚検査機器のマイクロスコープで検査してみると、8割以上が重症の乾燥肌で、毛穴が炎症で真っ赤になっていることに仰天しました。基礎化粧品の使用を休んでいただくと、肌の乾燥や炎症は劇的に改善しました。しかし、化粧品を使い始めると、またたくまに肌は悪化したのです。

調べてみると、ほとんどの化粧品に含まれている油や界面活性剤が、肌のバリア機能を壊して刺激していることがわかりました。そして、これらの事実言えることは、「化粧品が肌を悪化させている」ということなのです。

肌を健康な状態に戻すためには、全ての基礎化粧品のやめて、化粧をやめれば実現できます。このように基礎化粧品および化粧をすべて止めて肌を休ませることは「**肌断食**」と呼ばれています。それに必要な期間は人によって個人差はありますが、短い方で1ヶ月程度、長い方では半年～1年かかる場合もあります。

しかし、今の社会環境の中で現実的に「肌断食」は本当にできるのでしょうか？

女性の仕事柄上、化粧をしなければならない業種もあります。夫や彼氏にもっときれいな自分を見せたいために化粧をするときもあります。しかし、化粧は肌を傷つけます。化粧をすれば、当然それを落とすためにクレンジングもします。クレンジングはもっと肌を傷つけます。紫外線対策のために日焼け止めをつけます。効果の強い日焼け止めを落とすためにやはりクレンジングをしなければなりません。このように、肌に悪いとわかっていながら化粧をしなければならないのです。化粧をすれば、また悪循環に陥ります。

自分の肌のお手入れに対して、「これだ！」という自分が納得したものを持っている人が少ないのではないのでしょうか。なんとなく使い始めた化粧品をずっと使い続けていませんか。また、肌を休ませたくても、肌の休ませる方法がわからずに困っていませんか。

私はこのような状況の中、「肌断食をしなくても、女性の肌の健康を守る化粧品はできないのか？」という思いを込めて、商品開発を始めました。

そして、さまざまな苦難を乗り越えて、5年の歳月を経て完成したのが『ハダキララ』です。

この本では、『ハダキララ』の開発物語とともに、肌の基礎的な知識をはじめ、「素肌が今より美しくなれる方法」についてご紹介させていただきます。

この本を読めば、「素肌美の真実」についてわかるようになり、素肌が今よりきれいになるのはもちろんのこと、10年後の肌年齢マイナス20歳を達成できるようになります。あなたには必ずそれを達成できるはずです。

2019年6月1日 藤井一良

目次

まえがき	1
第一章 肌をきれいにしたいなら、化粧品をやめなさい	6
第一節 きれいな肌はどうやってつくられるの?	6
第二節 「コスメ好きほど肌がボロボロ」という事実	9
第三節 “キメ”こそが美人肌の決め手	12
第四節 化粧品をやければ、炎症は消える	13
第五節 悪いとわかっているのに、化粧しつづける人達	14
第二章 「肌」には奇跡の再生力が存在します	16
第一節 理想的な肌とは	16
第二節 肌の新陳代謝とは	18
第三節 ターンオーバーの日数は28日ではない	19
第四節 バリア機能の自家保湿膜の善と悪	19
第五節 どうすれば皮脂の酸化を防げるのか?	21
第六節 驚異の働きをする「皮膚常在菌」	22
第七節 「皮膚常在菌」の種類と働き	23
第八節 美肌菌とアクネ菌が肌に与える影響	28
第九節 美肌菌のメカニズムのまとめ	31
第十節 美肌菌とアクネ菌のバランスの大切さ	32
第十一節 皮膚常在菌をコントロールできる成分の探索	32
第十二節 肌本来の機能を取り戻すために	32
第三章 『ハダキララ』の開発物語	34
第一節 商品開発のきっかけ	34
第二節 実験の失敗から薄々気づいたスキンケアの真理	35
第三節 目指すべきゴールを再定義	37
第四節 菌量バランスの黄金比を目指して再始動	39
第四章 『ハダキララ』の徹底解剖	41

第一節	ハダキララってどんな商品？	41
第二節	生美容液って？	41
第三節	なぜ生美容液にこだわるのか？	41
第四節	ハダキララの安全性を証明する証拠	43
第五節	いいものを安く提供するための「包装」って？	44
第六節	『ハダキララ』が肌に与える効果	45
第七節	ハダキララの成分は水を除けば7種類しかない	49
第八節	ハダキララの成分解説	50
第九節	【間違え注意】幹細胞上清液と幹細胞培養液の違いは？	58
第十節	ハダキララ以外には何もしないスキンケア	64
第十一節	効果的な使用方法	65
第十二節	品質を劣化させない保存方法	65
第十三節	輸送方法	66
第十四節	もし、ハダキララが1ヶ月で使い切れそうにないときにどうするべきか？	66
第五章	『ハダキララ』が肌に与える効果を時系列順にまとめる	69
第一節	1日目～7日目（初期反応期間）	69
第二節	8日目～30日目（表面改善期）	72
第三節	30日～2ヶ月目（深部改善期）	74
第四節	3ヶ月目（毛穴改善期）	75
第五節	6ヶ月目（綺麗が当たり前になる時期）	76
第六節	『ハダキララ』を使って1年経過（過去の肌荒れを健忘してしまう時期）	77
第六章	『ハダキララ』の各種効果を科学的見地から解説	79
第一節	ツヤ改善	80
第二節	ニキビ、吹き出物改善	80
第三節	ハリ改善	81

第四節	毛穴改善.....	81
第五節	美白、透明感アップ	82
第六節	赤み改善.....	82
第七節	アトピー改善	83
第七章	『ハダキララ』を使いながら今後のスキンケアとの向き合	
い方	85	
第一節	化粧はどうすれば良いの？	85
第二節	日焼け止めはどうすれば良いの？	85
第三節	クレンジングはどうすれば良いの？	85
第四節	洗顔はどうすれば良いの？	85
第五節	枕カバーは頻繁に取り替えるべき	86
第八章	明日からすぐ効果があらわれるスキンケアの新常識.....	87
第一節	ローションパックの効果は？	87
第二節	ニキビの本当の原因はなんですか？	87
第三節	アクネ菌は悪い菌ですか？	87
第四節	ニキビには、せっけん洗顔が良い？	87
第五節	鼻の角栓パックはやっても大丈夫ですか？	87
第六節	ホットタオルで新陳代謝が高まりますか？	87
第七節	天然成分の入った化粧品は肌に良いですか？	87
第八節	美白化粧品を使い続ければ、効果はありますか？ ..	87
第九節	手のひらで肌をパッティングすると肌は生き返ります	
か？	87	
第十節	ストレスで原因で肌が荒れるって本当ですか？	87
第十一節	長くお風呂に入ると美肌になりますか？	87
第十二節	肌の乾燥にはどんな原因がありますか？	87

第一章 肌をきれいにしたいなら、化粧品をやめなさい

第一節 きれいな肌はどうやってつくられるの？

「美しい肌になりたい」と多くの女性たちは毎日、クレンジングや化粧水、クリームなどの基礎化粧品を使ってケアをし、また、肌を少しでもイキイキときれいに見せるために、ファンデーションや化粧下地、コンシーラーなどのベースメイクをしています。

ところが、基礎化粧品であれ、ベースメイクの化粧品であれ、化粧品の多くは、肌をボロボロにしています。肌を乾燥させ、炎症を起こさせ、あげくの果てには皮膚の新陳代謝を著しく低下させて、シミやシワ、くすみやたるみなどをつくる一大要因になります。ですから、美肌菌ドックのお客様には、肌をマイクロスコープで詳しく観察して、乾燥や炎症があるとまず、基礎化粧品やファンデーションなどの使用をやめるようにスキンケア・プログラムで指導してきました。

私が美肌菌ドックで使ってレポートおよびスキンケア指導の資料の一部を下図にてご紹介します。もしかしたら、今この本を読んでいる美意識が高い貴女も、この美肌菌ドックを受けたことがあるかもしれませんね。

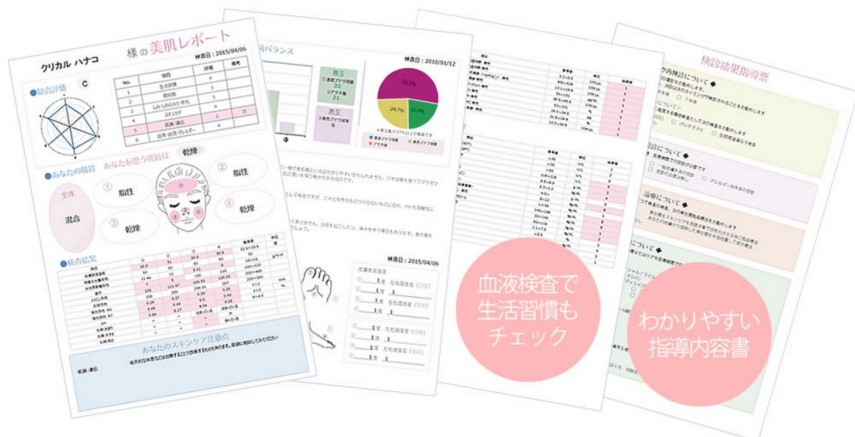


Figure 1 検査レポートの例



Figure 2 スキンケア指導書の例

基礎化粧品の使用をやめていただくと、肌の乾燥や演奏は劇的に改善しました。しかし、化粧品を使い始めると、またたくまに肌は悪化したのです。

調べてみると、ほとんどの化粧品に含まれている油や界面活性剤が、肌のバリア機能を破壊し、刺激していることがわかりました。

化粧品をやめてしばらくすると洗顔後の肌のつっぱり感がなくなり、年々確実に肌がきれいになることもわかりました。そして、これらの事実から「化粧品が肌を悪化させている」ということが確実に言えるのです。

きれいな肌はどうやってつくられるのか？その答えは簡単です。化粧品が肌を悪化させているというのであれば、化粧をやめればいいだけなのです。クレンジングが肌を傷つけるというのであれば、それをしなければいいのです。日焼け止めが肌に悪いというのであれば、日焼け止めに塗らずに、肌に陽が当たらないように生活をすればいいのです。

しかし、現実的な生活の中ではなかなかそうすることはできません。だから現代のスキンケアは難しいのです。化粧やスキンケアと肌の健康を両立させなければなりませんから。

では、どうすれば良いのか？それは『ハダキララ』を使うことです。その理由は、この本を読んでもらえれば自ずとわかります。

第二節 「コスメ好きほど肌がボロボロ」という事実

2015 年、私は日本国内にある美容クリニックと提携して、お客様の肌の状態を詳しく検査し、肌に付着している細菌（皮膚常在菌）の検査をするサービスを始めました。全身の健康を検査する人間ドックのように、肌の健康状態をチェックする美肌菌ドックが必要ではないかと考えたからです。

美肌菌ドックは新聞やテレビ、そして雑誌で取り上げられ、多くのお客様が申し込みをしてきました。そのおかげで、多くの肌のデータがすぐに集まりました。そのデータを集計して、私は仰天しました。

美肌菌ドックの概要を説明します。お客様のスキンケア習慣を知るために、150 項目以上の問診を事前に答えていただきます。そして、検査当日にクリニックに来院していただき、皮膚測定分野では最高峰の Courage+Khazaka（ドイツ製）Cutometer DUAL MPA580（キュートメーター）という皮膚測定機器を使って、一定の湿度と温度が管理された測定室で水分、油分をはじめとする肌の様々なデータを計測します。測定は肌の各部位に対して細かく行います。もちろん、マイクロスコープを使って肌の各部位の皮膚の拡大写真も撮影します。そして、最後にスワブ（サンプル採取用の綿棒のようなもの）を使って、お客様の皮膚に付着している皮膚常在菌を採取して菌量分析センターで分析をします。このようにしてたくさんのデータを収集するので。



Figure 3 皮膚測定機器の写真

美肌菌ドックを受けたお客様約 3,000 人のうち、2,200 人以上の方は肌が乾燥し、干からびてボロボロの状態になっていたのです。実に約 80 パーセントに当たります。

しかも、そのうちの 988 人、つまり全体の半数近くの肌が最悪の状態でした。健康、または正常といえる肌の人はずか 17 パーセントしかいませんでした。そのうち、非の打ち所がない理想的な肌をした人は、たった 3 %でした。

たとえば、全体の半数近くを占める最悪の肌とは、どれほどひどい状況なのでしょう？

下図を見てください。一番右側の「レベル 4」がそれに当たります。

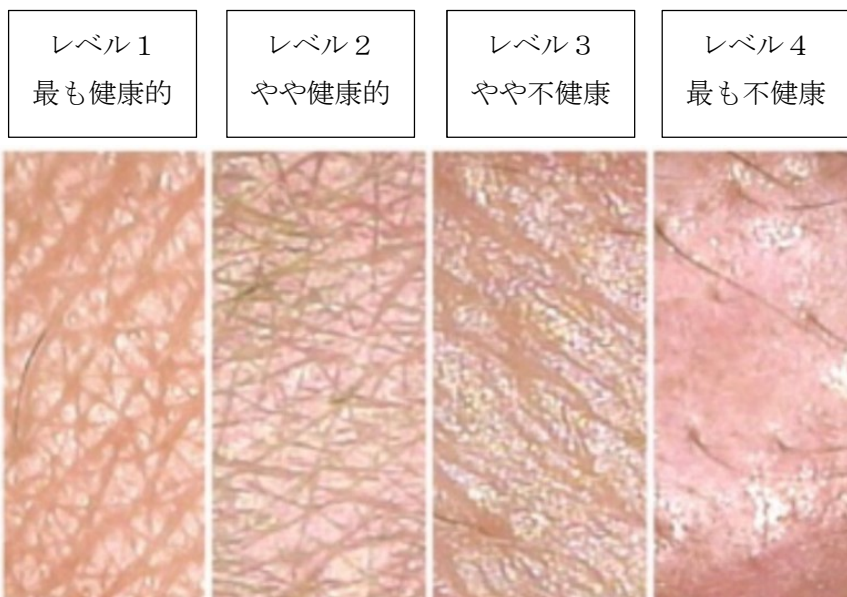


Figure 4 皮膚のキメの4段階

肌の表面にある細かい網目状の溝をキメといいます、「レベル4」ではそのキメが全く見えません。完全に消えてしまっています。

キメが無いということは、皮膚が萎縮して、もはや細胞分裂ができていない状態です。強酸で皮膚が刺激を受けたときや、水疱ができる程度のやけどが治ってきて、薄い皮が張ってきたときと同じ状態で、病的としかいいようのない肌です。それが「レベル4」の状態の肌です。

そんな肌の持ち主が全体の半数近くもいたのですから、私は本当に驚き、最初はその結果が信じられませんでした。

しかも、美肌菌ドックを受診してくれたのは、スキンケアをさぼっているような人たちではありません。美容クリニックで1回の検査に5万円ものお金を払って、自分の肌を診断してもらおうという人です

から、皆さんスキンケアに対する意識が高く、むしろ人並み以上に熱心にスキンケアをしている女性ばかりでした。

それなのに、8割以上の人肌がボロボロで、しかも、全体の半数近くが、細胞分裂も正常にできていない病的な状態だったとは。

私はその結果に大変ショックを受けました。

さらに調べてみると、熱心にスキンケアをしている人ほど、肌は乾燥して荒れ果てていました。

また、興味深いことに、そのような悪い肌状態の人には、肌の上で生息している細菌、つまり皮膚常在菌がほとんど付着していなかったのです。肌は無菌状態になっていました。

一般的な考えとして、肌をきれいにして、肌の上では細菌がないほうが美しい肌になれると思われがちですが、事実は全く違います。細菌がない肌は、とても荒れています。キメがなく、毛穴が炎症を起こしています。そして、その肌はとてつもなく敏感であり、ちょっとした成分に対してもすぐに肌荒れを起こしてしまうのです。

第三節 “キメ”こそが美人肌の決め手

美肌菌ドックをはじめ、お客様の肌の状態を観察する上でとくに役に立ったのは「マイクロスコープ」で見える肌のキメの状態でした。

このマイクロスコープは、パソコンに接続してモニター上で皮膚の表面を30倍から300倍に拡大して観察できるハンディタイプの顕微鏡で、肌の表面にあるキメや毛穴、皮膚の内部にあるメラニンや毛細血管、コラーゲン繊維細胞などもくっきり映し出します。くすみや、炎症の有り・なしまで一目瞭然にわかります。

肌のキメとは肌の表面にある細かい網目状の溝のことです。キメは年齢に関係なく、赤ちゃんであれ、80歳の高齢者であれ、健康な肌に

はキメが刻まれています。このキメの状態は、肌の健康や美しさの度合いを表しています。

先程のページの「レベル1」と「レベル4」を比べてみてください。「レベル1」のようにキメが細かくてひとつひとつの形が整っている肌ほど弾力があり、潤いに富んでいて、見た目も美しいです。健康的で美しい肌のキメは、網目模様の中がさらにふたつの三角形に別れ、細胞分裂がさかんになっています。その三角形が勢いよく盛り上がっていることが、細胞分裂がさかんな証拠です。

ところが、間違ったスキンケアを続けている人では、キメの溝が浅くなります。キメの量が減り続け、最後にはキメがまったくない肌になってしまいます。「レベル4」がまさしくその状態です。このような肌は、薄くて、弾力が失われているため、シワができやすく、極度に乾燥しています。そのため、洗顔後の肌がひどく突っ張るのです。

第四節 化粧品をやければ、炎症は消える

ボロボロの干からびた肌をした女性がなぜこれほどまでに多いのか？それは、スキンケア習慣の問診データと肌状態のデータを分析することですぐにわかりました。

お客様の中には、何もつけなくても肌が赤くなってしまう女性もいます。いわゆる敏感肌の人です。マイクロスコープで見ると、そういう女性たちの肌には、キメがほとんどなくて、肌は乾燥しきっています。

肌の乾燥が激しいということは、体内の水分の蒸発を防ぐ保湿膜が壊れているのです。また、それと同時に、肌を外界の刺激から守るはずの皮膚バリア機能も働いていないのです。皮膚バリア機能が働いていなければ、化粧品が皮膚の中にダイレクトに入り込んでしまうため、それが刺激となり肌は炎症を起こしてしまい、赤くなるわけです。

何をつけても赤くなるのですから、そういうお客様には、しばらく化粧品の使用をやめていただくようにスキンケア指導をします。

そこで、まずは1ヶ月間、クレンジング、クリーム、乳液、美容液、化粧水、フェイスパック、ファンデーションも全てやめて、洗顔は必ずお水かお湯だけにいただきました。

1ヶ月後に再検査したときに、マイクロスコープで肌をみると、何もつけなかった人たちは全員、キメが再生して、肌の乾燥感や洗顔後のつっぱり感もなくなっていました。

一方で、キメが改善していない人や悪化している人たちは、必ず何かをつけた人たちでした。

ところが、何もつけなかったお客様たちも、肌の乾燥がおさまって、キメができたと知ると、安心して、もう大丈夫とばかりに、化粧品でケアをはじめてしまいます。するとまた、すぐに肌が赤くなってしまうのです。マイクロスコープで観察してみると、キメが浅くなっており、洗顔後の突っ張り感も、もとの悪い状態に戻ってしまっていました。

第五節 悪いとわかっているのに、化粧しつづける人達

お客様が化粧品でスキンケアを始めてしまうには様々な理由があります。一番の理由は、「スッピンに自信が無いので化粧で美しく見せたい」ということでした。次に多かったのは、「仕事柄上、化粧しないと人前に出れない」という理由でした。そのような気持ちはとても理解できます。それが肌に悪いとわかっているながら、つつい化粧を続けてしまうのです。

私はこのような状況の中、「化粧をやめなくても、女性の肌の健康を守る製品ができないのか？」という思いを込めて、商品開発を始め

ました。

そして、皮膚常在菌に関する基礎研究から数千以上の化粧品成分を使った実験、試作品の開発および臨床モニターによる長期間の追跡調査など、さまざまな苦難を乗り越えて、5年の歳月を経て完成したのが『ハダキララ』です。

後ほど詳しく述べますが、『ハダキララ』を使えば、肌細胞の分裂が活発になり、肌のターンオーバーが早くなるので、保湿膜の再生もキメの回復も早くなります。そのため、化粧をしてもクレンジングをしても、ある程度までは『ハダキララ』が肌を守ってくれます。もちろん、それでも可能な限り肌に負担が少ないスキンケアの方法をお勧めします。

第二章 「肌」には奇跡の再生力が存在します

第一節 理想的な肌とは

最近では女性誌などでも「腸内フローラで美肌ダイエット」、「肌には美肌菌と悪玉菌がいる」などのキャッチフレーズで記事が取り上げられています。



Figure 5 皮膚常在菌を取り上げている雑誌の例

本来、理想的な肌とはどういうものでしょうか。いろいろな捉え方があるかと思いますが、一つには健全に新陳代謝されるサラサラ肌と言えます。



Figure 6 肘の内側の皮膚

あなたの肘の内側の皮膚を触ってみてください。肘の内側の皮膚は、サラサラしていますか？ベトベトしていますか？聞くまでもなく、肘の内側の皮膚はサラサラしています。

また、肘の内側の皮膚を近くからよく見てください。皮膚の上に、三角形の網目模様が見えますよね？それはまさにキメがある状態なのです。

そして、思い出してみてください。肘の内側は肌荒れを起こしたことがありますか？ニキビができたことがありますか？おそらく、99%以上の人は「いいえ」と答えるでしょう。

それはなぜでしょうか？

肘の内側の皮膚は、サラサラ肌であり、常に正常な新陳代謝をしているからなのです。

我々のスキンケアは、このサラサラした「肘の内側」の皮膚の状態を目指すべきなのです。

日々のスキンケアで、化粧水や乳液、クリームで肌をベトベトに保湿していませんか？本当に肌はそのような外部からの保湿を求めているのでしょうか？

理想的な肌は「サラサラした肌」なのです。本当の意味での正しいスキンケアは、「サラサラした肌」の状態を目指すべきなのです。

第二節 肌の新陳代謝とは

それでは、肌の新陳代謝とは具体的にどのようなことでしょうか。表皮細胞はやがて角質細胞となり、これが1つ剥がれ落ちると下から新しい表皮細胞が生まれてきます。これが健全な新陳代謝と呼ばれるものです。つまり角質細胞が剥がれ落ちなければ新しい細胞は生まれてこないのです。

逆に新しい細胞が生まれてくるためには、角質細胞がスムーズに剥がれる必要があります。そのためには適度な乾燥状態が必要となります。つまり、健全な新陳代謝を促すためには、しっとり肌よりサラサラ肌の方が適した状態と言えるのです。



Figure 7 健全な新陳代謝のイメージ図

第三節 ターンオーバーの日数は28日ではない

一般的に、肌のターンオーバーは28日と聞いたことがありませんか？多くのスキンケア入門本やインターネット上の知識では「ターンオーバーは28日周期である」と書かれています。

その記述は、一部正しいところはありますが、厳密に言えば正しくありません。

お肌のターンオーバーが28日なのは、20歳のときだけです。

生まれたての赤ちゃんのターンオーバーはもっと短いし、年齢を取るにつれてターンオーバーは長くなっていきます。

実は、私たちの実験によって年齢とターンオーバー日数の関係が見えてきました。それを下図に記します。

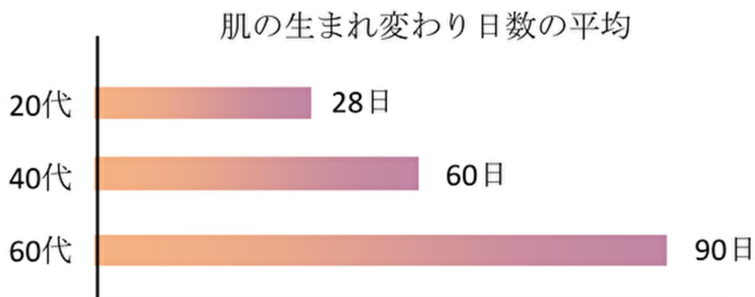


Figure 8 年齢とターンオーバー日数の関係

大まかに言えば、ターンオーバー日数は自分の年齢の1.5倍と想像いただければ大丈夫です。40歳であれば60日、60歳であれば90日にもなるのです。

第四節 バリア機能の自家保湿膜の善と悪

肌の最外層には、角質細胞が何層構造にもなって構成されており、それらの角質層と皮脂膜を含めて「自家保湿膜」と呼ばれています。

人間の肌はこの自家保湿膜があるからこそ、砂漠などの乾燥地帯でも、氷に覆われた極寒地帯でも肌がひび割れることがないのです。

つまり、自家保湿膜とは、保湿機能と外部からの異物の侵入を防ぐというバリア機能を担っているとても大切な膜なのです。

しかし、その自家保湿膜の一部である皮脂膜は約 5 時間以上経過すると酸化してしまいます。すると皮脂膜は過酸化脂質に変性して皮膚を刺激してしまいます。そして、その刺激が炎症を起こし組織を破壊してしまうのです。

この過酸化脂質が毛穴に長く滞っていけば、毛根が刺激されて、毛穴が広がったり、黒ずんだりしてしまいます。これが、毛穴の開き・黒ずみの原因なのです。

そして、この炎症が慢性的に長く続くと、毛穴が陥没した状態になり、いわゆる「クレーター」をつくってしまうのです。

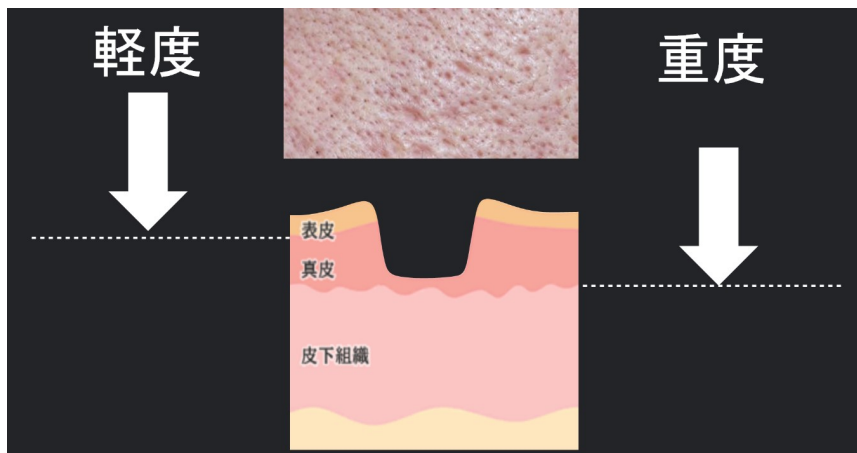


Figure 9 炎症の慢性化がクレーターをつくる

つまり、皮脂は保湿機能の一部として機能しているのですが、放置

すると組織を破壊する非常にやっかいな存在なのです。

だから、顔や背中など皮脂腺の多い、皮脂の分泌量の多い部位は炎症が発生しやすく、逆に皮脂腺が少ない部位は、腕や太ももの内側などはキメ細かい肌となっているのです。

第五節 どうすれば皮脂の酸化を防げるのか？

では、分泌された皮脂の酸化を防ぐためにこまめに洗顔すれば良いと思われるかもしれませんが、実際にはそう簡単にはいきません。

過剰な洗顔で皮脂を取り過ぎると、肌は乾燥していると誤解して過剰に皮脂を分泌します。さらには、その過剰な皮脂分泌によって皮脂腺が肥大化し、毛穴が隆起して毛穴が目立ってしまうことになります。

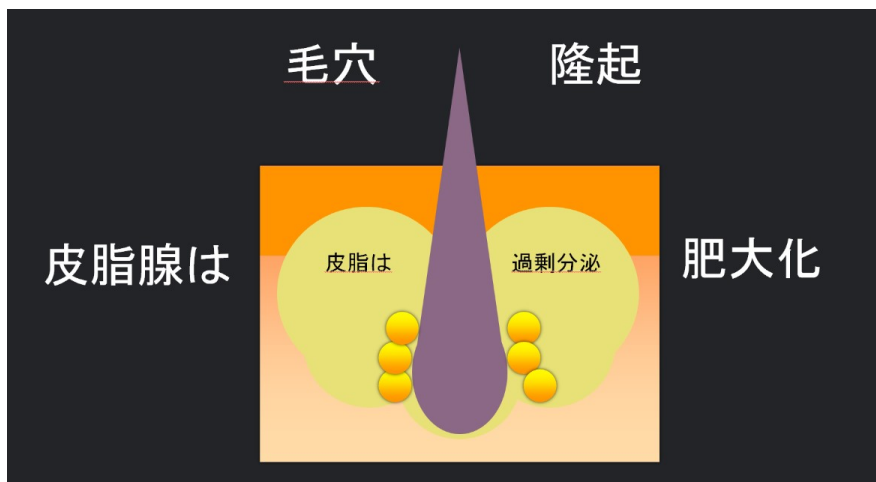


Figure 10 過剰な洗顔で皮脂を取りすぎることによる弊害

また、過剰に洗顔すると油分を失い表皮が薄くなり、結果的に自家保湿膜というバリア機能を失ってしまいます。バリア機能を失うと、

肌が保湿されないので細胞にとってもっとも重要な水分が蒸散しまい、乾燥肌、敏感肌となります。さらにその状態の肌では悪玉菌が増殖して炎症を起こし、紫外線によるシミを発生させる原因となるのです。

逆に、バリア機能があれば水分の蒸散を防ぎ、悪玉菌の増殖を抑制して紫外線による損傷から守ることもできるのです。

そのためにも皮脂を制御することがとても重要になります。皮脂をいかにコントロールするか。

ここがポイントとなるのです。適度な乾燥、それは保湿力を失わない程度の乾燥状態を維持することが健全なターンオーバー（肌の新陳代謝）の条件と言えるのです。

第六節 驚異の働きをする「皮膚常在菌」

では、人工的に皮脂を制御することは可能なのでしょうか。または、分泌された皮脂が過酸化脂質に変質するのを防止することは人工的にできるのでしょうか？答えはいずれも「NO」です。

皮脂の分泌量は、その人の体質や食生活に依存するので、皮脂を制御する化粧品は存在しません。

そこで我々が着目したのが微生物です。

微生物の力で分泌された皮脂を無害な物質、いや、有益なものへと変換させてくれるのです。

その微生物とは何か？なぜ、微生物が分泌された皮脂を無害化できるのでしょうか？次の節を読み進めれば答えがわかります。

第七節 「皮膚常在菌」の種類と働き

皮膚常在菌には様々な種類がありますが、顔全体には約 200 種類の菌が存在し、1 cm²あたり 100 万個の菌がいると言われています。



Figure 11 皮膚に生息している微生物

その中でも代表的な菌は、美肌菌、アクネ菌、黄色ブドウ菌です。それぞれの種類の菌について、以下にて説明します。

<美肌菌>

「美肌菌」とは肌に生息している美肌効果をもたらす菌のことです。学術的な正式名称は「表皮ブドウ球菌」と呼ばれています。

電子顕微鏡で見ると、下図のような丸いブドウの形をしています。

皮膚の表皮に生息しているブドウの形をしている菌、だから「表皮ブドウ球菌」という学術名称が付いているのです。

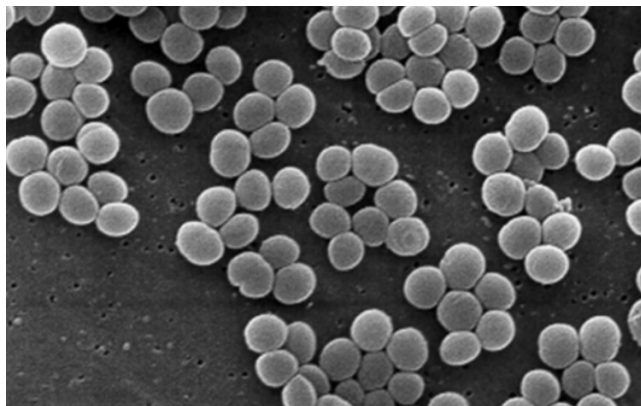


Figure 12 美肌菌の電子顕微鏡写真

この菌には、主に以下の3つの働きが存在します。

- 皮脂からグリセリンを含む天然クリームをつくり、紫外線や水分の蒸散から肌を守る
- アミノ酸などの肌の栄養素をつくる
- 肌を弱酸性に保ってくれる

先程ご説明した角質層と皮脂膜を合わせた自家保湿膜の中に存在してアミノ酸などの肌に必要な栄養素をつくっているのです。

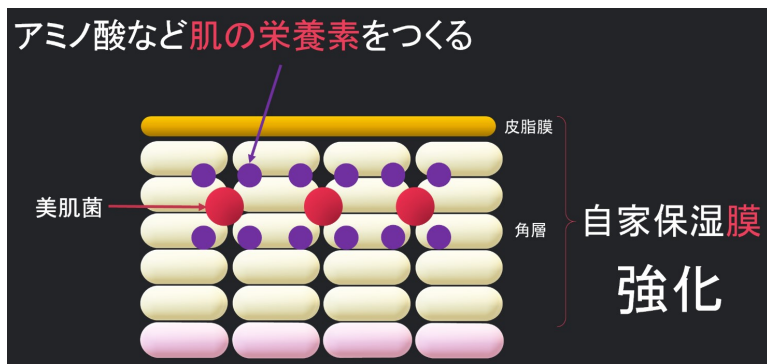


Figure 13 美肌菌が肌の栄養素を作る

美肌菌は肌が必要とする保湿成分も栄養素も作ってくれるのです！
美肌菌がたくさん存在する人の肌は、肌トラブルはほとんど無く、肌のキメが細かく、また、美白に見えるという特徴があります。

<アクネ菌>

次に「アクネ菌」は、毛穴に生息する嫌気性菌で、空気がないと増殖します。アクネ菌はニキビをつくる原因となる菌と認識されています。しかし、私たちの研究で明らかになったことですが、「アクネ菌」は完全なる悪玉菌ではなく、肌を弱酸性に保つという良い作用もあるのです。

下図の左側の写真はアクネ菌の顕微鏡写真です。ちょっと細長い形をしています。アクネ菌が多く生息している箇所に紫外線を当てるとオレンジ色の光を出すという性質があります。下図の右側の写真が肌に紫外線を当てた状態で撮影したもので、毛穴のある箇所がオレンジ色に光っているのがわかります。

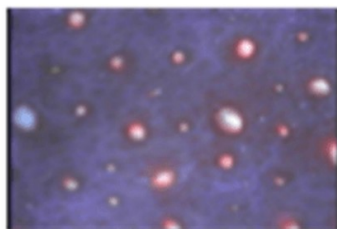


Figure 14 アクネ菌の拡大写真

ニキビ肌の方の皮膚にはアクネ菌が多いのは確かに事実ですが、ニキビが全くなくきれいな素肌の方でも、ニキビ肌の方よりアクネ菌の量が多い人もたくさん居ます。

アクネ菌が多いというだけでニキビになるという認識は間違いです。アクネ菌が適量に存在している状態は、肌に潤いをもたらすためにはとても重要なことです。

アクネ菌が居るからニキビになるのではなく、毛穴が新陳代謝のアンバランスなどの理由によって塞がってしまって、その中で異常増殖した暴れたアクネ菌によってニキビになるのです。

<黄色ブドウ菌>

「黄色ブドウ菌」は、アルカリ性環境を好む完全なる悪玉菌であり、最近の研究では、アトピー性皮膚炎や肌荒れの原因菌と言われています。

この菌は、電子顕微鏡で見るとブドウのような形をしていて、大量に培養すると黄色を発するようになるので、「黄色ブドウ球菌」と呼ばれています。

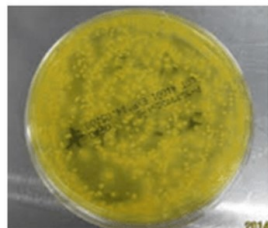
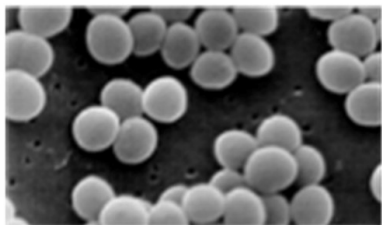


Figure 15 黄色ブドウ球菌の写真

＜マラセチア真菌＞

マラセチア真菌はカビの一種で脂性肌の方に多い傾向があります。皮脂や湿気が多い場所を好みます。

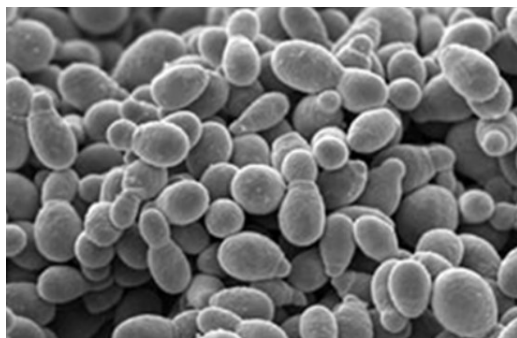


Figure 16 マラセチア真菌の電子顕微鏡写真

マラセチア真菌は、大量に増殖するとニキビや脂漏性皮膚炎などを引き起こしてしまいます。下図のような集中して発生するポツンとした丸いニキビは、マラセチア真菌が原因であることがほとんどです。



Figure 17 マラセチア真菌によって引き起こされるニキビ

第八節 美肌菌とアクネ菌が肌に与える影響

美肌菌とアクネ菌は、肌の pH をコントロールする働きがあります。通常、人の肌は弱酸性で pH は 4.3～5.5 とされています。

なぜ、人の肌は弱酸性に保つことができるのでしょうか？それは、美肌菌とアクネ菌と深い関係にあります。

美肌菌とアクネ菌は、肌から分泌された皮脂をエサします。これらの菌が分解した皮脂が遊離脂肪酸となり、それが pH を弱酸性化しているのです。

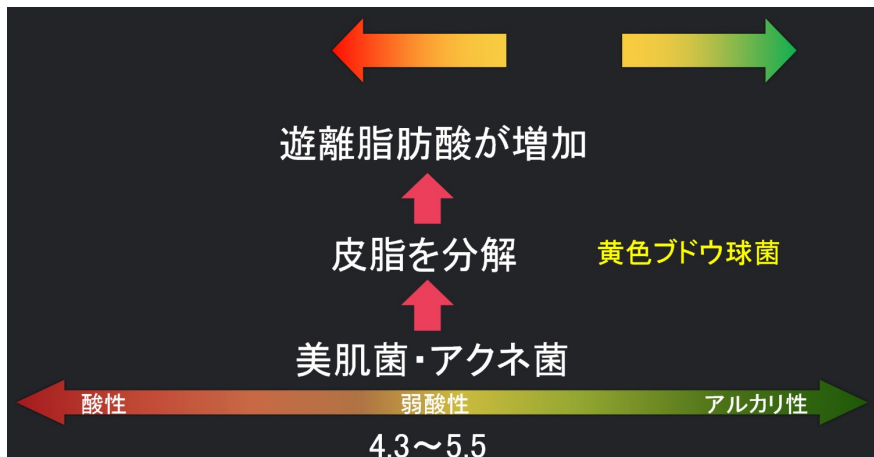


Figure 18 美肌菌と pH の関係

この 2 つの菌がないと肌の環境がアルカリ性に傾いて黄色ブドウ菌などが増え肌荒れの原因となってしまいます。

なぜ皮脂が分解されると、肌の pH が酸性に寄っていくのでしょうか。それを理解するために、皮脂の分子構造について知る必要があります。

皮脂はグリセリン 1 つに対して 3 つの脂肪酸を持つという分子構造をしています。美肌菌とアクネ菌は、リパーゼという分解酵素を出して皮脂を分解します。

そして、皮脂が分解されると、保湿成分である「グリセリン」と、酸性成分である「脂肪酸」の 2 つの成分に分かれるのです。

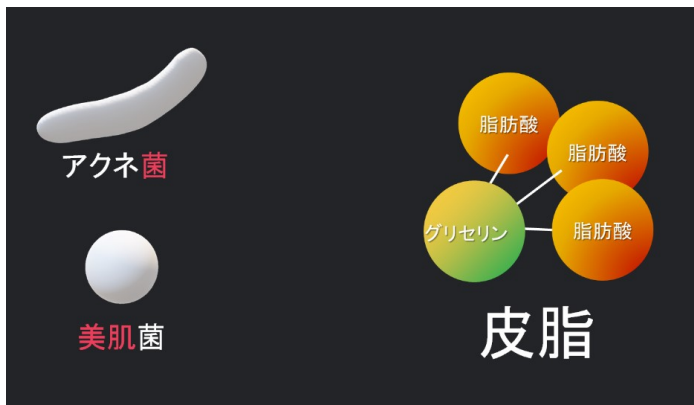


Figure 19 美肌菌とアクネ菌が皮脂を分解

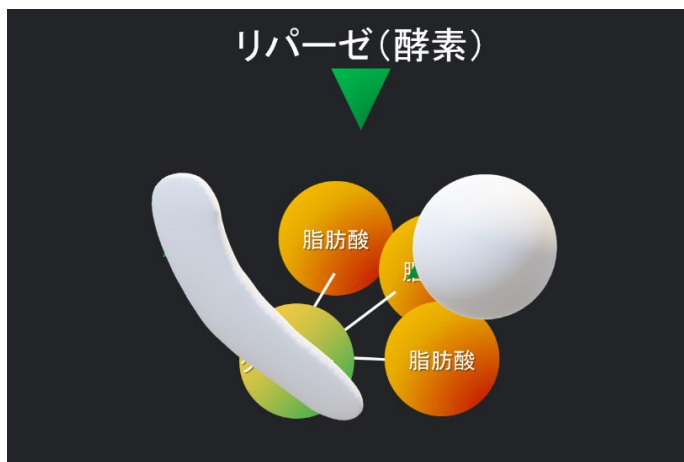


Figure 20 美肌菌とアクネ菌が皮脂を分解するときに酵素を用いる

分解産物の一つであるグリセリンは保湿作用で肌を守ってくれます。一方、脂肪酸は肌を弱酸性化することで、黄色ブドウ球菌の増殖を抑えることになります。



Figure 21 皮脂を分解してできた成分の役割

このように美肌菌とアクネ菌のコンビネーションによってやっかいな皮脂を適度に分解して、その人の肌に最適なサラサラ肌をつくりながら新陳代謝を促進し、さらには悪玉菌を抑制する働きをしているのです。

第九節 美肌菌のメカニズムのまとめ

美肌菌のメカニズムをまとめると、肌の栄養素をつくり自家保湿膜を強化する一方で、皮脂を分解して天然クリームをつくり、皮脂の酸化を防いで細胞を損傷させない働きがあると言えます。

これは、従来の化粧品では決してできなかった働きなのです。

従来の化粧品は、化学成分だけで肌の外部から保湿成分や栄養素を補おうとします。外部からの化学成分は、肌に塗ったときにしか肌に存在しないし、時間が経つにつれて蒸発したり汗などで洗い流されたりします。

しかし、美肌菌によって作られる保湿成分や肌の栄養素は、肌に美肌菌が存在している限り、24時間365日ずっと保湿成分と栄養素を作り続けてくれるのです。しかもその保湿成分や栄養素は、肌の外部から与えるのではなく、肌の角質層の中で生成されているのです。

第十節 美肌菌とアクネ菌のバランスの大切さ

毛穴に生息するアクネ菌も皮脂を分解してくれますが、増えすぎると異物として認識されて炎症反応を誘発してしまいます。つまり、一定数は必要でも多すぎると炎症を発生させるという負の側面もあるのです。

従って、美肌菌とアクネ菌の良いバランスを保つことが重要になります。良いバランスとは美肌菌を優位に保つことです。

第十一節 皮膚常在菌をコントロールできる成分の探索

そんな皮膚常在菌のバランスを調整するために、私たちは、数千以上ある化粧品成分を使って、日々地道にこれらの成分が美肌菌やアクネ菌などの皮膚常在菌に与える成分を調べて、その結果をすべて記録しました。

成分とその配合比率のバリエーションから皮膚常在菌のバランスを保つ比率の最適解を得るためには、AI（人工知能）も活用しました。バイオロジカルなデータを AI にインプットして、その結果に基づく成分と配合比率で試作しての実験、この繰り返しによってようやく、悪玉菌と抑制して、美肌菌を優位にするためのバランスを調整する美容液が完成したのです。

第十二節 肌本来の機能を取り戻すために

私たちは、肌に生息する微生物に着目して化粧品開発を行っていま

すが、その微生物の本来の役割は、自家保湿膜を機能させることです。自家保湿膜さえ機能すれば、肌は子供のときのような美しさを取り戻すことが可能となるのです。

世の中には、塗っている間だけの一時的な保湿感を追求したり、塗っている間だけ肌をきれいに見せたりするという自家保湿膜を破壊している化粧品は多くあります。

私たちの挑戦は、そんな化粧品に対する挑戦でもあります。

これからも、肌本来の機能を取り戻すことを目的にした商品開発を行い、みなさまに愛される商品づくりをしていきたいと考えています。

第三章 『ハダキララ』の開発物語

第一節 商品開発のきっかけ

皮膚科学の学術研究は日進月歩です。近年における大きな発見の一つに皮膚常在菌の研究があります。腸内細菌と同じように皮膚にも細菌の生態系が存在し、その生態系が破壊されると肌トラブルが起こることが分かってきました。

なかでも美肌菌と呼ばれる表皮ブドウ球菌は、従来の化粧品では不可能だった働きをしてくれることが解明されつつあります。

また、私たちの研究によりニキビの原因菌として殺菌ターゲットとなっているアクネ菌も実は美肌菌とのコンビネーションで善玉菌として働いていることも分かりました。

実はこれらの知見は、日本国内にある美容クリニックと提携して**130 項目の臨床データ**と顔の各部位ごとの**常在菌の種類と常在菌数の3,000人以上のデータ**を収集、解析した結果なのです。

このプログラムのなかで気づいたことは、多くのお金をかけて積極的にスキンケアをしている人ほど肌質が悪いということでした。病的なほどに表皮は炎症を起こして、肌が薄く黒ずんでいたのです。それは加齢によるものではありません。20代でもそんな人が多くいるのです。そんな彼女たちの美肌菌を測定すればかならず「ゼロ」という結果でした。過剰なスキンケアにより、美肌菌がいなくなっているのです。

つまり、肌を美しく保つ美肌菌が生息できる環境ではないのです。逆に、美肌菌がいらないから肌質が悪化しているとも言えます。

では、美肌菌を増やせば肌がキレイになるのか、といえばそうとも言えないのです。美肌菌が多すぎてもトラブルを起こすことがあるのです。

つまり、美肌菌を含んだ善玉菌と悪玉菌のバランスを良くなれば肌質も良くなるので、常在菌バランスを改善維持するための化粧品を開発すれば、肌はキレイになる。そこにフォーカスした商品開発が始まったのです。

第二節 実験の失敗から薄々気づいたスキンケアの真理

私たちはまず美肌菌を増やすことに着目しました。

なぜなら肌がきれいな人はたくさん美肌菌を持っているためです。

そこで、私たちは美肌菌を増やす成分を実験によって選定し、それを試作品に入れてモニター試験を行いました。また、美肌菌自体を肌から採取し、それを実験室で大量に培養して、生きている美肌菌を肌に戻してみることもしました。

しかし不思議なことに美肌菌を増やした当初は一時的に肌の調子が潤って良くなるのですが、その後、継続して使用するとcomedoやニキビができた人が多発してしまいました。

次に、アクネ菌がニキビの原因になるのではないかと思い、アクネ菌の殺菌を試みました。アクネ菌の殺菌実験に使ったものは、「強酸性水」という電気分解によってできた極めて酸性度合いが強い水のことで、医療現場や食品工場の殺菌にも使われているものです。「強酸性水」の殺菌効果はすさまじく、アルコールと同じように、30秒もすれば細菌を殺すことができます。しかし、アクネ菌は毛穴の奥に存在するた

め、もっと長い時間殺菌する必要があります。

もし、殺菌しようとしてアルコールを肌につけたとしても、つけた瞬間にすぐに皮膚がヒリヒリしてしまい長く試験をすることができません。しまし、強酸性水なら、もとは水なので、アルコールのように刺激は感じず、長く肌につけていることができるのです。だから、強酸性水を選定したのです。

私たちは、寝る前の自分の肌に強酸性水をたっぷりつけて、翌朝に起きてアクネ菌の量を分析しました。

翌朝にはアクネ菌がすべて死滅して、ツルンピカーンの美肌になっていると期待していました。

しかし、不思議なことに、翌朝起きてみると、大変なことが起こっていました。

毛穴は広がり黒ずんでおり、肌は炎症を起こしてしまい、肌は油っぽくなりました。最短最速で美肌になるどころか、最短最速で肌荒れを起こしてしまったのです。

アクネ菌の量を調査したところ、なんと前日の2倍以上にも増えていました。アクネ菌を殺菌するつもりが、結果的にはアクネ菌が大量に増えていったのです。

その後数日に渡ってニキビが大量発生してしまい、もとの肌の状態に戻るのに大変長く時間がかかりました。

ここで私たちは、アクネ菌を殺菌してはいけないのだということをはっきりと思い知ることができました。

上記で示した実験は数多くある実験の中の一例ですが、私たちは実験の観察過程で、「皮膚常在菌は、増えすぎても減らしすぎても肌にとって悪い結果になる」と気づいていました。しかし、そのときはまだ

それがどういう原理でそうなのかまでは理解できていませんでした。

そして、上記の実験で発生していたことは、まさに私たちが日々スキンケアで行っていることなのではないかと思いに至るのです。肌に栄養を与えようとして、洗顔後にたっぷり乳液やクリームを塗ったりしていませんか。使用する化粧品の種類にもよりますが、それによって美肌菌が増えすぎてニキビになったり、肌荒れを起こしたりしていませんでしたか。

その一方でニキビケア製品の中ではアクネ菌の殺菌をうたっている製品も多くあります。それを使うことで果たして本当にアクネ菌は死滅するのでしょうか。殺菌による肌への刺激が、皮膚の乾燥を招き、逆に皮脂の分泌を促進してしまい、アクネ菌がさらに増えてニキビが改悪するという結果になっていませんか？

第三節 目指すべきゴールを再定義

美肌菌を増やしすぎてもダメ、アクネ菌を減らしすぎてもダメ。
では、どうすれば良いのか、私たちは途方にくれました。

そして、過去に美肌菌ドックで得られたすべてのデータの再分析を始めたのです。再分析を始めてすぐに、驚くべき事実を発見しました。

それは、

「素肌がきれいな人ほど、善玉菌と悪玉菌のバランスが優れている」
ということです。

つまり、素肌がきれいな人には、共通する菌量バランスの黄金比が存在しているのです。

菌の絶対量は、人によって大きく異なるので特徴を見つけることが

できなかったのですが、絶対量から相対比率に視点を変えてみたところ、素肌美人に共通する驚きの黄金比が見えてきたのです。

【その黄金比とは】 …

- 美肌菌の比率が 40%未満であること
- アクネ菌の比率が 40%程度であること
- マラセチア菌の比率が 20%未満であること
- 黄色ブドウ球菌が全く存在しないこと

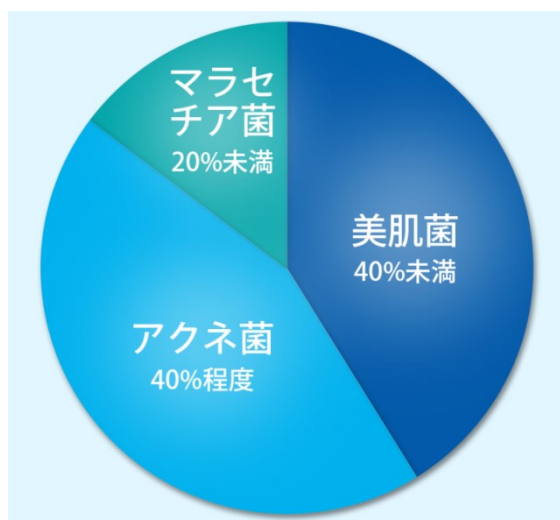


Figure 22 素肌美人に共通する菌量バランス

この法則が見えたとき、私たちは驚きを隠せませんでした。

何らかの方法を使って、この共通する菌量バランスの黄金比になることができれば、素肌がきれいになれるのではないかと考えたのです。

そして、商品開発において、使用者の肌の菌量バランスがこの黄金

比になるようなものを目指すべきゴールとしました。

第四節 菌量バランスの黄金比を目指して再始動

常在菌のバランスを整えるといっても簡単ではありません。

なぜなら、皮膚常在菌にはお互いに似たような性質を持っていて、育菌成分を与えようとするすると全部増えてしまいますし、防腐剤を与えると全部死滅してしまいます。特定の菌を増やし、特定の菌を減らすというような器用なコントロールができなかったのです。

しかし、私たちは最後まで諦めませんでした。

「この世の中に、皮膚常在菌のバランスを素肌美人の黄金比に調整できる成分とその配合比率が絶対に存在するはずだ」と信じて、実験を繰り返しました。

市販されている化粧品に含まれる成分（数千もある成分）をメーカーから1つずつ取り寄せて、それが菌に与える効果を地道にコツコツと調べました。また、複数の成分を混ぜ合わせたものが、菌にどのような影響を与えるかのパターン検証もひたすら行いました。

そして、これまでの知見に基づき仮説を立てることで大まかな組み合わせをつくり実験を繰り返したのです。その実測値をベースにさらに仮説を立てて再実験する。

このループを何度も何度も繰り返してきたのです。

研究所内での実験は約1年続けられました。膨大な数の実験によってようやく見つかったのです。悪玉菌を抑制させながら善玉菌を阻害しない、菌量バランスを素肌美人の黄金比に近づける成分と配合が。

それは偶然から生まれた神秘の配合比率だったのです。

しかし、これはあくまでも実験室内での結果に過ぎません。本当に人の肌の上でそのような結果になるかどうかは分かりません。さらにどんなに機能的に優れていてもその使用感が悪ければ評価もされません。そのため、サンプルをつくっては実際に肌トラブルを抱えているモニターユーザ様に試してもらい症状について感想を頂き、さらに改良していったのです。



それからさらに3年。

実験と試作とモニター臨床試験を繰り返した結果、ついに誰もが満足する逸品が完成したのです。

それが今あなたが手に取っている『ハダキアラ』です。

第四章 『ハダキララ』の徹底解剖

第一節 ハダキララってどんな商品？

『ハダキララ』は最新皮膚科学から生まれたヒト幹細胞成分入りの美肌菌育成オールインワン生美容液です。

皮膚常在菌バランスに着目した、素肌の美しさを追求する考えに基づいて作られた基礎化粧品です。

第二節 生美容液って？

『ハダキララ』は、シンプルな成分を組み合わせることで皮膚常在菌の悪玉菌の活動を抑制し、善玉菌である美肌菌を相対的に増殖させることで自然な状態で肌を美しく再生させるものです。

しかし、このなかの一部の成分が酸化しやすいものが含まれているため常温で 2 ヶ月以上放置するとその効果を失います。そのため、1 ヶ月以内のご使用を前提としてお使い頂き、長期間使わない場合には冷凍保存をおすすめしております。

そういった意味で“生美容液”と呼ばれています。

第三節 なぜ生美容液にこだわるのか？

生美容液にこだわる理由を一言で言えば「肌の健康のためだから」に尽きます。そして、それは以下の4つの理由に細分化できます。

<理由1：本当に防腐剤が入っていないから>

例えば、生野菜や生肉はそのままの状態でも長期保存が可能でしょうか？

時間の経過とともに確実に腐ります。

もし、健康食品のセールスマンに「このとれたての生鮮食品は、栄養素に富んでいて、健康に大変良く、3年間も5年間も保存することができるからとても健康的なのです！」と言われたら、あなたはそれが健康に良いと信じることができますか？

化粧品も同様です。とくに基礎化粧品の大部分は水分なので、菌が繁殖します。

それを防止するために防腐剤が大量に含有されているのです。

最近では防腐剤フリーをうたっている商品がありますが、これには防腐剤として定義されていない防腐効果のある成分が含有されているのです。

つまり、完全に防腐剤が入っていないことではないのです。

本商品は防腐剤はもちろん、そのような防腐効果があるとされる成分は一切使用していません。

<理由2：美容成分を最大限に発揮したいから>

一般的に、化粧品の製造の過程で加熱殺菌することがよくあります。しかし、その過程で美容成分の分子構造が加熱によって変わってしまい、成分の効果が薄まってしまうのです。

本商品は、加熱処理をせずに、美容成分の効果が最も発揮できる生の状態で製造・お届けしております。

<理由3：肌に優しくしたいから>

一般的に防腐剤や防腐剤類似物質は少量であっても肌に刺激を与えてしまうことがあります。

本商品は、肌に優しくしたいため、肌に刺激を与える可能性のある一切の添加物成分を排除しております。

<理由4：美肌菌の働きを阻害したくないから>

防腐剤や防腐剤類似物質は、細菌を殺したり、細菌の働きを止めたりします。美肌菌も細菌の一種なので、防腐剤などによって同様に活動が抑えられてしまうのです。本商品は美肌菌を阻害する可能性のある成分を独自に実験室で判別してすべて除外しています。

第四節 ハダキラルの安全性を証明する証拠

ハダキラルは肌に刺激となる成分や防腐剤を一切使っておらず、肌に無刺激であることが第三者検査機関「一般財団法人日本食品分析センター」によって証明されています。

そのため、肌が敏感な方でもご安心していただけます。

もし、気になる方は事前にパッチテストをしてからご使用ください。



Figure 23 無刺激であるエビデンス

第五節 いいものを安く提供するための「包装」って？

『ハダキララ』の包装や容器は、確かに市販されている一般的な高級美容液と比べて、見劣りします。

しかし、それにはきちんとした理由があります。

より良いものを安くお届けするために、容器に関しては化粧品にありがちな高級感を演出するような容器は使用していません。なぜなら、容器自体が生美容液の価値を高めるとは考えていないからです。

だから、そこにコストをかける意味がないのです。

また、品質維持のために、製造後から出荷直前まで冷凍保存を行います。もし、高級感のあるガラス瓶を使っていたら、冷凍でガラスが割れてしまうリスクがあるのです。

また、輸送費も大きなウェイトを占めるので郵便ポストに投函が可

能な厚みが 3cm 以内に収まるようにしたのです。

その結果、当初の目標である「いいものを安く」皆様へご提供できるようになったのです。



Figure 24 ハダキララの包装形態

第六節 『ハダキララ』が肌に与える効果

私たちは、300人以上のモニターのご協力により、ハダキララが肌に与える効果を調べる臨床試験を行いました。

臨床試験プログラムを簡単に説明します。被験者の方には、まずハダキララを使う前の肌の状態を細かく調査します。そして、日々のスキンケアの中でハダキララを使い始めてもらいます。そして、1週間ごとに肌の各種数値の調査と肌のマイクロスコープ写真撮影、専用器具による肌全体の写真撮影、そして常在菌の量を調べます。それを、最大3ヶ月続けていただくのです。

さらに、1週間ごとに、スマートフォン経由で自分で感じた肌の変

化について、50設問以上のアンケートに答えていただきます。そのアンケートには総合的評価から肌荒れ、毛穴、乾燥、シミ、シワなどのピンポイントの変化に対しても答えていただきました。

そのアンケート回答画面の一例を掲載します。設問項目が多くて答えるのが大変ですが、ハダキララの効果を測定するためには大変必要な情報なのです。

The image shows a questionnaire interface with two main sections: '顔の印象' (Facial Impression) and '肌質の改善' (Skin Improvement). Each section contains multiple Likert scale questions. A red box highlights the right side of the scale, specifically the +1 and +2 markers.

顔の印象 (Facial Impression)

- ① 総合的に見て、美肌調利用開始と比べて美肌調を利用してから、自分を感じる肌の調子はどうなりましたか？
良くなった -2 -1 0 +1 +2
- ② 美肌調利用開始と比べて、他人から「肌がきれいになったね」と言われるようになったか？
あまりよくなった -2 -1 0 +1 +2
- ③ 美肌調を継続して利用したいと思いませんか？（費用、金額の面を別にして）
すごく利用したい -2 -1 0 +1 +2
- ④ 美肌調を継続して利用したいと思いませんか？（費用、金額の面を考慮して）
利用したい -2 -1 0 +1 +2
- ⑤ 美肌調を買って検討したい。

肌質の改善 (Skin Improvement)

- ⑥ 総合的に見て、美肌調利用開始と比べて、肌荒れは改善したと思いませんか？
すごく改善された -2 -1 0 +1 +2
- ⑦ スキンケアの回数が増えた。
- ⑧ ニキビは改善されましたか？ ニキビの数はどうなりましたか？
すごく減った -2 -1 0 +1 +2
- ⑨ コメド・角栓は改善されましたか？ コメド・角栓の数はどうなりましたか？
変わらぬ -2 -1 0 +1 +2
- ⑩ 化粧崩れは改善されましたか？
すごく改善された -2 -1 0 +1 +2
- ⑪ 肌の赤み、赤みは改善されましたか？
改善された -2 -1 0 +1 +2
- ⑫ 毛穴の黒点は改善されましたか？
改善された -2 -1 0 +1 +2
- ⑬ 毛穴の黒ずみは改善されましたか？
改善された -2 -1 0 +1 +2
- ⑭ 乾燥が改善されるようになりましたか。つまり、肌の乾燥による刺激を少なくすることができますか？
改善された -2 -1 0 +1 +2

主観的改善	● 肌の水分量は増えたと感じますか？	-2	-1	0	+1	+2
	増えた					
	デカリがなくなつて自分の水分のバランスが前より良くなった気がする。					
	● 肌の水分量ほどのような状況ですか？	-2	-1	0	+1	+2
	減った					
	デカリがなくなりました。					
	● 洗顔後、しばらく何もしない場合、肌がツっぱりやすくなる感じは改善されましたか？	-2	-1	0	+1	+2
	改善された					
	ツっぱり感がなくなりました。					
	● 肌にしっとり潤いは増えましたか？	-2	-1	0	+1	+2
変わらない・分からない						
アンチエイジングに関する改善	● 肌のキメが改善されたと思えますか？	-2	-1	0	+1	+2
	改善された					
	化粧のノリが良くなった。					
	● 肌の透明感は増えたと思えますか？	-2	-1	0	+1	+2
	すごく増えた					
	スピン肌の肌が前よりキレイになった気がする					
	● 肌の赤みの頻度があったと思えますか？肌がフツーン熱くなった感じはありますか？	-2	-1	0	+1	+2
	すごく増えた					
	スピン肌がキレイになった。					
	アンチエイジングに関する改善	● シミ・くすみの改善はあったと思えますか？	-2	-1	0	+1
改善された						
● 乾燥シワは改善されましたか？		-2	-1	0	+1	+2
変わらない・分からない						
● 肌にツヤが出てくるようになりましたか？		-2	-1	0	+1	+2
すごく改善された						
● 肌にハリが出てくるようになりましたか？	-2	-1	0	+1	+2	
すごく改善された						

Figure 25 ハダキララ臨床試験時のアンケート

ハダキララの商品開発の完成には、被験者の方々のご協力が大いに貢献しています。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

その臨床試験の結果を整理したところ、ハダキアラが肌に与える効果には、医学的に整理すると以下のものがあります。

<キメの再生>

キメの再生（表皮の膜を厚く強くする）は、私たちが本来持っているバリア機能を回復させます。これにより紫外線に強くシミの発生を防ぎ、水分の蒸散を防ぐことができます。保湿力が向上し、表皮細胞はふっくらとするので毛穴の開きがなくなります。また、光の乱反射効果により肌が美白に見えるようになります。

<炎症やニキビの改善>

さらに悪玉菌の増殖を抑制するので、炎症やニキビがあれば改善し、その後はニキビや炎症が発生しにくい肌質へと変化します。

<肌のハリを保つ>

バリア機能の回復は、短期的にも長期的に肌にとって欠かせないものです。しかし、バリア機能だけでは肌のたるみを防いだり、ハリを取り戻すことはできません。

そのためにはハリを保っている3つの成分、コラーゲン、エラスチン、ヒアルロン酸が必要になるのです。これら3つの成分はすべて線維芽細胞がつくっているのですが、加齢とともにその機能が衰えてくるのです。

その対策として、それらの成分を化粧品に含ませている商品がありますが外部からは真皮層へ届くことはありません。肌のハリを保つためには、やはり内部からハリを保つ成分を肌自身がつくりだすことが

重要なのです。そのためには線維芽細胞を活性化させる必要があります。

活性化させるその因子は **FGF**（線維芽細胞成長因子）と呼ばれており幹細胞が生み出しているのです。

『ハダキララ』にはこの **FGF** がたっぷり入っており、それ以外に幹細胞が産生した多くの活性化因子が含まれているのです。

だから外側のバリア機能だけでなく、内側からのハリをも改善させるパワーを持っているのです。

第七節 ハダキララの成分は水を除けば7種類しかない

『ハダキララ』の成分一覧は以下となります。これは『ハダキララ』の全成分です。

- ① 水
- ② ホホバ種子油
- ③ グリセリン
- ④ BG
- ⑤ スクワラン
- ⑥ パルミチン酸アスコルビルリン酸3Na
- ⑦ ヒト骨髄由来幹細胞上清液
- ⑧ フラーレン

水を含めると8種類になりますが、水を含めなければたったの7種類しかありません。

市販されている一般的な化粧品の成分は、少なくとも20種類、多い

ものだと 50 種類～60 種類もあります。成分の種類が多いということは、それだけ肌に刺激を与えるリスクがある成分が多いということになります。

市販されている一般的な化粧品に本当にそんなに多くの成分が必要でしょうか。成分の多くは分子量が大きいので肌に浸透しません。たくさんの成分が肌に載っているだけで、それが肌や毛根を刺激して、肌に炎症を与える可能性も高くなり、毛穴の開き・黒ずみの原因にもなってしまいます。

それに対して、『ハダキララ』には 7 種類の成分しかないので、非常に安全で安心して使えます。

第八節 ハダキララの成分解説

『ハダキララ』のそれぞれの成分について以下にて解説致します。

<成分 1：ヒト骨髄由来幹細胞上清液>

ハダキララには、ヒト骨髄由来幹細胞上清液が含まれています。

「ヒト骨髄由来幹細胞上清液」とは、人間の骨髄に含まれる幹細胞を培養して得られるエキスのことです。

ヒト幹細胞は、私たち人間に生まれつき備わっている万能細胞の一種です。

幹細胞は、主に以下に挙げる 3 つの能力を持っています。

- 1, 色々な種類の細胞に変身（＝多分化）できる
- 2, 同じ能力を持つ細胞をコピーする（＝自己複製）機能を持っている
- 3, 分化と複製によって傷ついた細胞を「修復」する

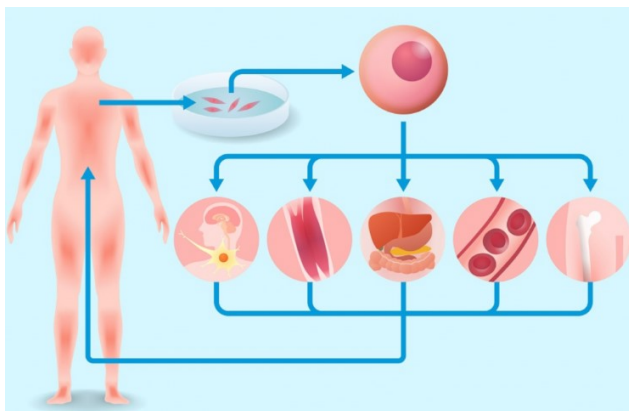


Figure 26 ヒト幹細胞のイメージ図

骨髄由来の幹細胞は、幹細胞の中でも特に分裂活性が高いと言われている幹細胞です。

この幹細胞を試験管内で培養して、その生きた幹細胞から泌されるエキスを抽出したものが「ヒト骨髄由来幹細胞上清液」です。

200 種類以上のタンパク質と 150 種類以上の成長因子を含んでおり、優れた美肌効果を期待できます。

具体的に言うと、

- ・ターンオーバーの活性化
- ・美白効果
- ・コラーゲンやヒアルロン酸の増殖（保湿作用）

・シワやたるみの改善（アンチエイジング作用）

などの効果が期待できます。

<成分2：スクワラン>

スクワランはもともと人間の体内で作られるスクワレンは皮脂細胞内で生成され、表皮に分泌されたものが皮脂膜の成分の1つになっています。皮脂膜は空気中の雑菌や汚れ、乾燥から肌を守る働きがあります。

スクワランは親油性と親水性を併せ持つので、肌になじみやすく保湿効果がとても高いのです。刺激が少なく高い保湿効果があり、肌のバリア機能も高めてくれます。

スクワランはヒトの皮脂にも約 5～15%程度含まれているスクワレンを酸化しにくくなるように安定化し、化粧品原料として使いやすくしたオイルの仲間です。

化学的に安定しており、油感が少なく、伸びも良く、無色無臭、しかも非常に安全性が高いので、現在は多くの化粧品に配合されています。

その用途としては、皮膚にもともと存在するスクワレンと同様に皮膚から水が蒸散するのを防ぐための皮脂膜（保湿バリア）を形成する目的で利用され、その保湿作用から皮膚の乾燥性疾患や非炎症性アトピーの治療にも用いられます。

また、通常のいわゆる油脂とは構造が異なるため、微生物のエサになりにくく、私たちはこのスクワランが、ニキビの原因の一つとされるマラセチア菌のエサにならないことを検証し、確認しています（下図参照）。

表1. マラセチア菌の生育に対する各種オイルの影響				
	Tween 80 (培養実験の標準 のエサ)	オリーブ 油	ホホバ 種子油	スクワラン
生育度	++	+	—	—
マラセチア菌用液体培地に各種オイルを混和し、37℃で8日間静置培養後、 培養液を寒天培地に塗布し、生菌数を計測した。				
++: 10^{3-4} +: 10^{1-2} —: 0 (cfu/ml)				

Figure 27 マラセチア菌の生育に対する各種オイルの悪影響

<成分3：パルミチン酸アスコルビルリン酸3Na (APPS) (ビタミンC誘導体)>

「パルミチン酸アスコルビルリン酸3Na」はビタミンC誘導体の1種です。名前が長いので、通称「APPS」や「アプレシエ」と呼ばれています。

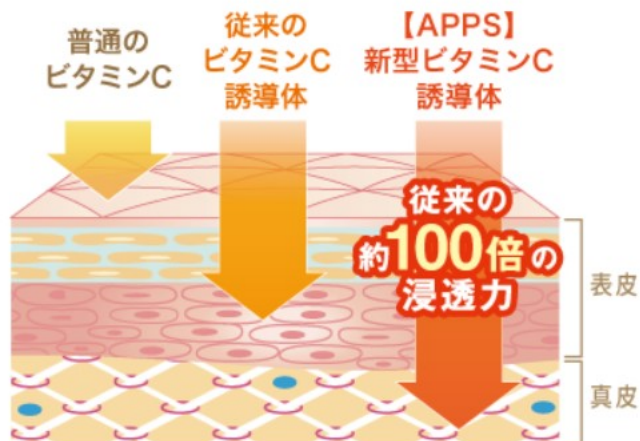


Figure 28 APPS と通常のビタミン C の浸透力の違い

通常のビタミン C は水溶性なので肌に浸透しませんが、APPS は水にも油にも溶ける性質のため、細胞膜を通過することができて、ずっと肌に浸透します。

ビタミン C 誘導体には肌に対してたくさんの良い効果があります。

- メラニン色素の合成を抑制し、できてしまったメラニン色素を薄くします。
→ シミやニキビ跡の色素沈着を目立たなくし、色素沈着のしにくい肌を作ります。
- コラーゲンの生成を助けます。
→ 肌のハリを保ち、内側からピンとした弾力のある肌づくりを助けます。ニキビ跡などによる気になる凹凸も、内側からなめらかに整えていきます。

- 活性酸素除去作用があります。
→ 活性酸素を防ぐことで、老化やトラブルから、肌を守ります。
- 血行を促進し、肌の新陳代謝を整えます。
→ 皮膚の血行を良くして肌のターンオーバーを正常化します。
くすみのない明るい肌色へと導きます。
- 過剰な皮脂分泌を抑えます。
→ 毛穴を引き締め、ニキビのできにくい肌を作ります。

<成分4：フラレーン>

フラレーンは、ビタミンC誘導体と同じように、高い抗酸化力を持つ成分です。

フラレーンはノーベル賞の受賞成分です。この成分の分子構造は下図のようなサッカーボールの形をしていて、この構造の隙間で肌細胞や毛穴の炎症を引き起こす活性酸素を捉えて、活性酸素を無害化しているのです。

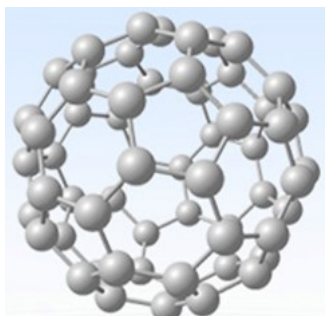


Figure 29 フラレーンの構造

優れた抗酸化作用を持つフラーレンは、アンチエイジングに最適の成分です。

なんと、抗酸化力はビタミンCの 172 倍といわれています。りんごを使った実験でも、その抗酸化力がわかりやすく証明されています。

りんごを使ったフラーレンの抗酸化力実験を紹介します。りんごは、一度切ってしまうと、数十分以内にすぐに酸化して色がくすんできますね。

しかし、フラーレンの溶液を塗ったりんごは1時間後でももとの色のままです。つまり、フラーレンを使えば、酸化を防止できるのです。



Figure 30 りんごを使ったフラーレンの抗酸化力実験

肌についても同じです。肌が酸化すると、様々な肌トラブルを引き起こします。

フラーレンはお肌のシミやしわ・くすみを引き起こしてしまう原因の活性酸素を吸着・除去し、無害化する働きがあるので、抗酸化力はトップクラスです。次のような効果が期待できます。

- ・ 優れた抗酸化作用によって、くすみやしわなどの肌老化の防止
- ・ 余分な活性酸素の除去をし、肌のターンオーバーを活性化させる
- ・ コラーゲンの増加促進でお肌のハリをアップさせる

- ・ 肌ストレスを回復し、肌本来のバリア機能を回復させる
- ・ メラニンによる色素沈着を防ぐ
- ・ 脂肪のセルライトを抑制する

＜成分5：ホホバ種子油＞

ホホバ種子油は一般的には「ホホバオイル」とも呼ばれています。
美容オイルとして有名です。

ホホバの実から抽出される植物性のオイルです。



Figure 31 ホホバの実

ホホバオイルは保湿力に優れているため、スキンケアにもとてもおすすめの成分と言われています。

皮膚をやわらかくする作用があるため、お肌に付けると、お肌がふっくらとしてハリとツヤが出ます。

また、ホホバオイルには、皮脂のバランスを調整する作用もあるため、乾燥肌からオイリー肌までどんな肌質の方でも安心して使え

る成分です。

ホホバオイルには以下の効果があると言われています。

- ・ 保湿力に優れている
- ・ 皮脂のバランスを調整する作用でどんな肌質にも使える
- ・ 皮膚をやわらかくする作用でお肌にハリ・ツヤが出る
- ・ 毛穴の黒ずみやニキビのケアにもなる
- ・ 抗酸化作用でアンチエイジングにもつながる

<成分6：グリセリン>

グリセリンは、もっとも古くから用いられてきた有名な保湿剤のひとつで、皮脂膜の分解によって生成する皮膚成分の1つでもあります。保湿剤として、また柔軟剤として使用され、肌にうるおいとしっとりした感触を与えます。

<成分7：BG>

グリセリンと同じように有名な保湿剤の一つですが、グリセリンよりは若干さっぱりとした心地の成分です。肌に対する刺激は一切ありません。

第九節 【間違い注意】幹細胞上清液と幹細胞培養液の違いは？

この商品に含まれる主成分の1つ「幹細胞上清液」について、市場

で出回っている類似成分と混同されやすいので、ここではっきりとその違いについてご説明させていただきます。

『ハダキララ』に含まれる成分は「幹細胞上清液」です。世の中には、「幹細胞培養液」入りの製品がたくさん出回っていますが、それらとの違いについて説明致します。

<幹細胞とは？>

まず、幹細胞について説明します。

幹細胞には、さまざまな種類があります。幹細胞の定義としては、自らコピーできる能力があること、異なる細胞に分化する能力があること。この2つの能力を有する細胞が幹細胞です。

私たちの体は1個の細胞が37兆個にまで分裂して成長します。成長が止まると細胞分裂しない細胞と死ぬまで分裂し続ける細胞があります。皮膚や毛髪の細胞はそのような細胞です。だから、肌は何歳になっても再生できるのです。

<骨髄由来幹細胞とは？>

これまでの研究で歴史が長いのは骨髄由来幹細胞です。骨髄移植は50年ほど前から実施されていますが、骨髄にある幹細胞を抽出するためには、当然ながら骨髄液を採取しなければなりません。そのためには全身麻酔が必要なので、患者負担が大きくなります。

<幹細胞には品質差があります>

骨髄由来幹細胞はこのようにドナーからのサンプル取得が困難であるため、脂肪由来幹細胞がここ数年注目されてきました。脂肪の採取はとても簡単なものです。局所麻酔だけで患者さんも脂肪は多くとつ

てもらいたいという潜在的なニーズがあるためです。

このように得られた幹細胞には、個体差がつねにあります。個体差とは、Aさんの幹細胞とBさんの幹細胞では、その性質が異なるということです。それは成分とする場合には、大きな障害になります。なぜなら品質が一定に保てないからです。品質にばらつきがあれば、効果もばらつきます。

また、培養方法や工程によってもその性質が異なります。幹細胞を培養するためには、細胞を増やすための培養液が必要となります。その培養液をオリジナルにつくっている会社もありますが、通常は市販されている試薬を使います。

＜幹細胞培養液の人体への危険性＞

一般的に細胞を増やすためには動物由来の（ウシなど）血清があるとないとではかなり培養効率が変わります。血清が入っている方が細胞は圧倒的に多く増えるのですが、安全性の問題が出てきます。それは、BSEなどで問題となったウィルスが血清に混入してくる可能性が否定できないためです。このため、培養液を販売しているメーカーはかならず販売時に人体には使わないことを前提として販売しています。

しかしながら、日本化粧品工業連合会および化粧品原料国際命名法（INCI : International Nomenclature of Cosmetic Ingredient）に登録されているヒト骨髓由来幹細胞培養液には「ウシ胎児血清の含有は問わない」と明記されています。

さらに、INCIが提唱する培養方法で幹細胞を増殖させると、以下の

問題となる成分が含有します。

「フェノールレッド」

これは、人体においては分解されない物質です。

「メルカプトエタノール」

国内では毒物及び劇物取扱法に基づき毒物に指定され、かつ消防法に基づく第4類危険物に該当するものです。

このように劇物指定された物質やウシ胎児血清などが含有している幹細胞培養液は多く流通しているものと考えられます。

実際に、幹細胞を培養していなくても、細胞増殖する因子をわずかに含ませることで「幹細胞エキス」とうたって販売しているメーカーも多々あります。

幹細胞培養液は人工的に合成されたものですので、当然のことながら「有機化」されたものではありません。「有機化」とは、「生体内でつくられたもの」という意味です。生体内の幹細胞がつくりだしたさまざまな有効因子は、当然ながら生体内の細胞に吸収されやすくなります。しかし、人工産物である培養液にはそれができないのです。

生体由来の有効因子が含有されていなくても、それを模倣する類似化学物質は多くあります。それらの物質の配合でテクスチャーを整えることは可能ですが、細胞内に取り込まれることはほとんどありません。

<【混同注意】”上清液” “と”培養液”は全く異なるものです>

ここで「幹細胞上清液」と「幹細胞培養液」を明確に区別する必要があります。

「幹細胞上清液」とは、実際に生きた幹細胞を培養した結果、その培養液中に幹細胞自らが産生する有効因子が含まれているのに対して、「幹細胞培養液」は、幹細胞が培養できるであろうと思われる栄養分に人工的な有効因子を添加している、もしくは何も添加していないものです。

「幹細胞上清液」を得るための幹細胞を実際に培養するためには、多くの設備と技術と時間を要します。そのため高いコストが発生してしまいます。一方、幹細胞培養液をつくるのに設備や技術は必要ありません。

だから市場に流通する多くの製品は「幹細胞培養液」となるのです。

それに対して、私たちが成分に使っているのは「幹細胞上清液」です！

＜幹細胞上清液の質を決める4つの要素＞

さらに、幹細胞上清液には以下の4つの要素がその「質」を決定します。

- 1, 産生因子・・・幹細胞が異なれば、産生因子も異なります。
- 2, 幹細胞の個性・・・細胞特性のことです。
- 3, 培養方法・・・何継代して培養しているか？
- 4, 培養液・・・各社違うものを使っている。

ベースとなる培養液は、オリジナル培地を開発している会社もあれ

ば、海外製品を購入しているケースもあります。それぞれに特徴があり、当然ながらその中に含有されている成分も異なります。

この培養液を用いて、幹細胞を培養するのですが、その培養には「世代」という概念があり、簡単に言ってしまえばコピーを何回繰り返すのか、ということです。通常、コピーを何度も繰り返せば品質は劣化します。同じように、培養を繰り返せば、それだけ多くの幹細胞を増やすことができますので、それらの細胞をさらに分割して増やし続けることが可能となります。しかしそれは、結果的に幹細胞上清液を多く取得できることになるのですが、質的に劣化していくことになるのです。

このように培養液と培養回数（世代）が、その幹細胞の「質」を決定づけ、有効因子の種類や量に変化を与えるのです。

つまり、「幹細胞上清液」の本質は、「培養液」と「産生因子」であり、それをどの程度の濃度で使用するかによって肌への効果が定義されることになるのです。

＜ハダキアラに含まれるのは安全で高価な上清液です＞

私たちが開発した「ハダキアラ」には、ヒト骨髄由来幹細胞の上清液が高濃度で添加されています。それは単なる培養液ではありません。

実際に骨髄由来幹細胞を培養して得た上清液です。その培養の継代は3世代として、もっとも品質的に高い世代でそのすべてを回収し、さらに国際基準の安全性を担保するために「フェノールレッド」や「メルカプトエタノール」は完全に除去しています。

この高純度な幹細胞上清液を高濃度で配合させているのが『ハダキララ』です。

第十節 ハダキララ以外には何もしないスキンケア

『ハダキララ』をご使用になる場合には、その他の製品、化粧水、保湿クリーム、ローション、美容液、美容クリーム等は一切、使わないことをお薦めしております。

なぜなら、それらの製品には必ず防腐剤が混入されており、菌の活動を阻害させてしまう恐れがあるためです。

また、それらの製品を使ったとしても肌質が改善される可能性はほばないことを私たちは知っているからです。むしろ乾燥を助長させたり、肌トラブルを発生させる要因にもなっているのです。

例えば、なぜ保湿ローションをつけて乾燥するのかと言えば、それらの製品には“もっちり感”を得るために必ずヒアルロン酸などの「とろみ成分」が含有されています。この「とろみ成分」とは、水分を多く吸着させることでとりみが得られます。

しかし、この「とろみ成分」内の水分はいずれ蒸発します。するとどこから水分を吸収するのかといえば、肌からの水分を吸収するのです。つまり、肌から水分を奪ってとろみを維持することになるのです。

このため表面上は保湿感があると誤解してしまいがちですが、実はそのとろみ成分の下層にある肌からは水分がどんどん奪われていることになるのです。

肌からの水分が奪われるということは、角質細胞の水分がなくなることなので細胞は干からびます。すぐに剥がれて肌は薄くなります。

結果的に本来持っている肌の保湿力はなくなり乾燥がよりいっそうひどくなるのです。

このような悪循環を断つためにも、当社製品以外には一切ご使用しないことをお勧めしているのです。

そうすれば 1～2 ヶ月ほどで肌本来のバリア機能を取り戻すことができるはずです。

第十一節 効果的な使用方法

朝晩の洗顔後に 10 円玉ほどを手のひらに垂らして、指先で少しずつ広げて顔全体に馴染ませます。それ以外に保湿パックや化粧水、美容クリーム、保湿ローションなどは一切つけないでください。

乾燥が気になる箇所や、肌荒れしやすい箇所がございましたら、その箇所に重ね塗りしてみてください。重ね塗り後、美容成分が皮膚に浸透してある程度乾いてくるまでゆっくりとマッサージをしてください。

また、目尻や目の下の部分についても、指先に少し『ハダキララ』を載せて重ね塗りすることをお勧めします。それを続けて行けば、目尻のシワや目元のたるみが解消されていくことが期待できます。

さらに、もし『ハダキララ』を出しすぎて余ってしまったら、首元まで塗ってみることもお試しください。首のシワは長期戦にはなりますが、少しずつ薄くなることが期待できるはずです。

第十二節 品質を劣化させない保存方法

『ハダキララ』は生美容液ですので、常温保存すると品質が劣化し

て効果を失います。そのため、毎日の使用前後は必ず冷蔵保存してください。それでも、1ヶ月以内に使い切るように心がけてください。2ヶ月以上長期間ご使用にならない場合には必ず冷凍保存してください。

第十三節 輸送方法

本製品をお受け取りしてからすぐにご使用になる前提として、常温にて郵送されます。

第十四節 もし、ハダキララが1ヶ月で使い切れそうにないときにどうするべきか？

もし、お手持ちの『ハダキララ』が余りそうになって、1ヶ月で使い切れなないかもしれないと思った場合のアドバイスとして、お肌がとっても喜ぶ3つの方法をご提案致します。ぜひご参考ください。

<提案1：週末の使用量を増やしてみる>

週末、もし化粧しない日や、長い時間の睡眠を確保できそうな夜は、肌へのご褒美という気持ちを込めて、いつもよりやや多めに贅沢に『ハダキララ』を塗ってみてください。

塗ったあとに、3～5分ほど肌全体を優しくマッサージして、成分が全部浸透するまでマッサージを続けます。

そして、たるみやシワ対策として、目元や目尻をピンポイントで重ね塗りしてください。

また、首までたっぷり塗ると、首のシワの改善も見込めますよ！

そうすれば、翌朝起きたとき、あっと驚くプルンプルンのうる艶美肌になっていることでしょう！

＜提案 2：ご家族と一緒に使う＞

家族や知人と一緒に使うことで、消費を早くすることができます。
少しの間使うだけでも、肌質改善が期待できます。

あなただけではなく、家族や知人も美肌になって一緒に喜んでいただけることが嬉しいです！

＜提案 3：どうしても余ったら、余った分を予備用として冷凍保存する＞

もし、どうしても前の月分を使い切れずに余ってしまって、翌月分が届いてしまった場合は、前の月分を冷凍保管してください。冷凍保管すれば長期間でも成分が劣化することはありません。

そして、新しく届いたフレッシュな翌月分のものを自分へのご褒美として贅沢に日々使ってください。

冷凍保管した前の月分は、今後の予備として保管してください。必要になったときに解凍して使えば良いのです。

予備の分の使い道は人それぞれですが、例えば、以下のようなケースが考えられます。

- ・ 1ヶ月よりも早く使い切りそうな月のとき
- ・ 旅行や出張などで外に持ち運ぶ必要があるとき
- ・ 目元のたるみや目尻のシワ対策として集中的に塗りたいとき
- ・ 冬にたくさん塗りたいときに備えて保管したいとき

日々の普段使いは常に最新のフレッシュなもの、それ以外のときは冷凍保管したものを使うというふうにしていいただければ、最高にフレッシュで美肌成分たっぷりの『ハダキララ』を肌に与えることができますので、ツルンとなめらかな真の美肌をずっと保つことができます！

第五章 『ハダキララ』が肌に与える効果を時系列順にまとめる

『ハダキララ』が肌に与える効果を時系列順にまとめてみました。このまとめは、実際にハダキララを長期間に渡って使用した方を追跡調査した結果をまとめたものです。

これから『ハダキララ』を使おうとしている方、もしくは今後『ハダキララ』を継続しようとしている方は、このまま使い続けると、自分の肌がどうなるのかという予測に使えるのではないかと思います。

一般的に、『ハダキララ』が肌に与える効果は、皮膚の薄いところから顕著になります。皮膚の深い部分の悩みは、ターンオーバーによって生まれ変わるまでに時間がかかるので、改善されるまでに時間がかかります。

第一節 1日目～7日目（初期反応期間）

この期間は、人によって感じる効果の違いが最も出やすい期間です。肌質や今までのスキンケア週間によっては、逆に肌が荒れると感じてしまう場合もあります。

もちろん、「塗った直後から肌が保湿されていて全く乾燥感を感じない」、「ハダキララを塗った翌朝から肌が潤った」という声が大半です。

しかし、少数ですがなかには以下の現象が寄せられるときもありました。

<現象1：肌がいつもより乾燥する感じがする>

現象の原因：

今までのスキンケア習慣で乳液やクリームを過剰に使用している方によく見られる現象です。肌自身が持つ保湿能力が弱まっているため、使い始めは乾燥感を感じてしまうのです。

『ハダキララ』は、肌自身が持つ保湿力を回復させることを目的としている商品なので、必要以上の保湿成分は入れていません。

そのため、使い始めの方は保湿が物足りないと感じてしまうことがあります。

オススメする対策：

そのままご利用を続けてみてください。継続することで、肌自身の保湿能力が回復していきます。乾燥感は3日～1週間ほどで改善していくのでご安心ください。

<現象2：肌に少しかゆみを感じる時がある>

現象の原因：

『ハダキララ』の美容成分によって、肌の自家保湿膜が再生される際に生じる感覚です。

治りかけの傷口に痒みが生じるのと同じ状態です。このとき、赤みが生じなければ大丈夫です。

オススメする対策：

そのまま使い続けても問題ないのですが、かゆみが気になってしまい日常生活に支障をきたす場合は、使用量を少し減らし、そのままご利用を続けてみてください。

通常、数日以内にかゆみが収まるはずですが、もし、かゆみが続くようであれば、使用量をさらに減らしてご使用ください。

＜現象3：アゴや唇、鼻の周りに白いコメドが少しできる＞

現象の原因：

白いコメドができるのは、『ハダキララ』の成分「ヒト幹細胞上清液」の働きによって肌の新陳代謝が活発化しているためです。

アゴ周りや唇周りの毛穴は小さいため、老廃物の放出が間に合わず、白いコメドができてしまう場合があります。

オススメする対策：

コメドは1～2日で収まる場合がほとんどですので、そのままご利用を続けてみてください。コメドを決して引っ掻いたり、潰したりしないでください。もし、数日経過してもコメドが収まらないのであれば、養分が多すぎる可能性があるので使用量を減らしてみてください。

＜現象4：稀にニキビができる場合がある＞

さらに、ごく一部の使用者の中には、コメドが進行してニキビになってしまう場合もあります。

でも、そうなったとしても、ご安心ください。

ニキビができるのは、肌細胞が若返っているからなのです！

思い出してみてください、若かりし頃の肌を。ニキビができていたりしていませんか？

ニキビができるのは『ハダキララ』に含まれるヒト骨髄由来幹細胞成

分によって、肌細胞の働きが活発化しているからです。

この活性化は、正確に言えばヒト幹細胞上清液由来の成長因子による線維芽細胞の活性化のことです。

「肌断食」という言葉はご存知ですか？

「肌断食」とは、肌本来のバリア機能や保湿機能などを回復させて素肌を美しくするために、化粧水をはじめとするスキンケア全般をストップすることです。しかし、多くの方はそれが肌にとって良いことだとわかっていながらも、なかなか続けることができません。それは肌断食をし始めたときに、ニキビや乾燥などの肌トラブルが発生し、人によってはその状態が半年～1年も続くためです。

しかし『ハダキアラ』を使えば、幹細胞成分によって肌のターンオーバー周期が短くなるので、非常に短期間で肌本来のバリア機能を回復させることができます。それは、「肌断食」以上に肌に良い効果をもたらします。

『ハダキアラ』を使い始めた当初は、肌細胞の活性化の度合いにムラができるため、毛穴からの老廃物の排出が間に合わず、ニキビができてしまう場合があります。それは肌本来のバリア機能が再生する段階で通過するプロセスの一つなので、数日でニキビは自然と収まり、その後、肌の状態は一つ上のランクにステップアップします。

ですから安心してそのままご使用を続けてみてください。続ければ、必ずあなたの肌に良い変化が訪れます。

第二節 8日目～30日目（表面改善期）

この期間に、皮膚表面の状況が改善します。

初期で発生していた乾燥感やコメドがなくなってきた、いよいよ肌の状態が上を向いて全力疾走します。

翌朝、起きたときに何もしなくても肌がぷる〜んと潤っていて、ツヤが出ていることに気づく方が多いです。

そして、お風呂上がりに、何もしなくても肌が突っ張らなくなることになります。ときには、スキンケアをしたかどうかを忘れてしまうときがあります。それは、肌自身の保湿能力が高まって、乾燥感を感じなくなるからです。

このとき、うっすらと肌に膜ができてくることを実感できるはずで、それが今までの過剰なスキンケアで失われてきた自家保湿膜なのです。

お客様ご自身で調べることはできないのですが、このときに肌の常在菌のバランスは整ってきます。美肌菌が少なかった人は美肌菌が増えてきます。アクネ菌が多かった人はアクネ菌が減ってきます。悪玉菌であるマラセチア菌や黄色ブドウ球菌の量は確実に減ってきます。

そして、素肌美人に共通する菌量バランスの黄金比に近づいてくるのです。

菌量バランスが整えば、肌の水分量と油分量が整ってきます。皮膚測定の特許機械で調べればわかるのですが、水分量が少なかった人は、水分量が増えてきます。油分量が少なかった人は油分量が増えてきます。逆に、今まで油分量が多かった人は、油分量が減ってくるようになるのです。

第三節 30 日～2 ヶ月目（深部改善期）

この時期になれば、肌のキメは整ってきます。今まで、過剰なスキンケアで失われてきたキメが回復するのです。あなたの肌の状態は、まさに肘の内側の皮膚のように、きれいな三角形の網目状キメが生まれるのです。

キメが回復すると、光をよく反射するようになります。肌が光をよく反射すると、肌が美白に見えてくるのです。

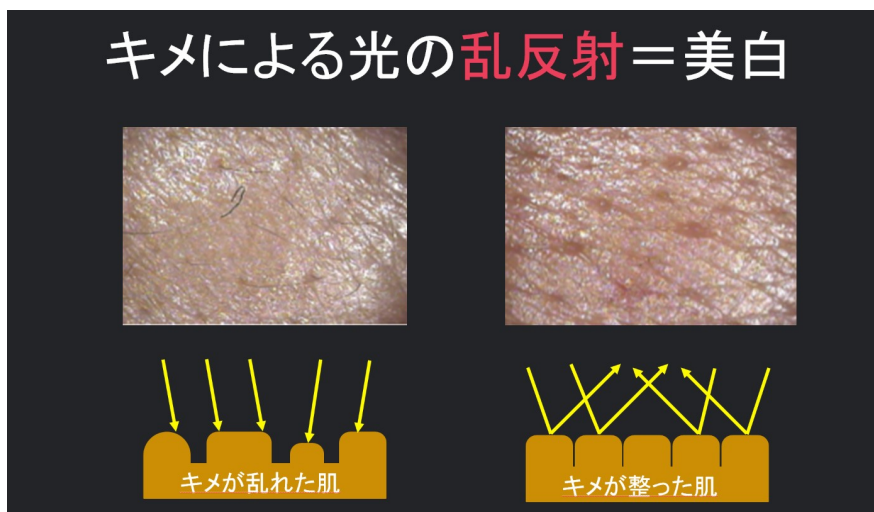


Figure 32 キメによる美白のメカニズム

この美白は、人工的に白いファンデーションで作られた美白ではありません。男性が本能的に好む健康的で自然な美しさの美白なのです。

また、これは自分の主観になってしまうのですが、キメの回復による美白の改善は、市販されている美白美容液よりよっぽど短期間で確実に美白を手に入れることができるように思います。

この時期に、次に多く寄せられるのは

「ニキビができなくなった」、

「肌荒れしなくなった」

という声です。

『ハダキララ』を使えば、肌のターンオーバーが整い、皮膚常在菌が良いバランスに保たれるので、アクネ菌が暴れないのです。ニキビの原因は、アクネ菌によるものではありません。過剰に増えすぎて暴れたアクネ菌によるものなのです。

また、もし仮にニキビができそうになっても、それが重症化することがありません。毛穴が少しポコッと盛り上がった程度の状態になり、そのまま引っ掻いたり潰したり刺激しなければ、赤くなることもありません。数日もすれば、それがまた消えるのです。

ニキビが重症化しないということは、ニキビ跡が残らないということの意味します。

ニキビ跡は、シミになって半年ぐらい残る場合もあります。ニキビを作らないことがシミ対策の一番の近道なのです。

第四節 3ヶ月目（毛穴改善期）

『ハダキララ』を継続して3ヶ月目。

この時期に一番多く寄せられるのが

「毛穴の開きが改善した」や

「毛穴の黒ずみが改善した」という声です。

『ハダキララ』で正しいスキンケアを続けていけば、毛穴が炎症を起こすことはありません。

実は、毛穴も好きで広がっていた訳ではないのです。過去の間違ったスキンケアによって、刺激となる成分が毛穴に入り込んで毛穴が炎

症を起こした結果、仕方なく毛穴が広がるのです。この因果関係は、私たちの実験でも明らかになっていることです。

『ハダキアラ』を継続使用することで皮膚常在菌のバランスが整います。毛穴から分泌された皮脂は酸化されて有害な物質に変化する前に、美肌菌が増えたことによって、遊離脂肪酸とグリセリンという肌にとって良い成分に変化するのです。

また、『ハダキアラ』に含まれる幹細胞上清液やビタミン C 誘導体によって、肌のコラーゲンの産生量が増えます。肌のコラーゲンが増えれば、肌がプルンとなり、毛穴が周りからギュッと押しつぶされて小さくなるのです。

第五節 6 ヶ月目（綺麗が当たり前になる時期）

この時期になると、素肌がきれいであることが当たり前になります。

肌のキメが改善されて、肌荒れが起きなくなり、ニキビができなくなり、肌が乾燥しなくなり、肌ツヤが改善して美白になり、肌がハリのある状態が当たり前になり、日常生活の中に溶け込んでいきますから。

そうすると、一部の使用者様は、このタイミングで『ハダキアラ』を卒業する方もいらっしゃいます。

私は、『ハダキアラ』を卒業することには反対しません。

『ハダキアラ』を使わなくても、日々のスキンケア習慣で美しい肌が保たれればそれに越したことはありません。

しかし、現実にはなかなかそうは行きません。現代社会の諸事情により化粧はしなければなりません。

化粧をすれば化粧に含まれる成分は肌を刺激します。化粧をすればクレンジングもしなければなりません。クレンジングをすれば肌の自家保湿膜は破壊されます。また、ストレスによって、ニキビができて始めたりするのです。

そして、1ヶ月もしないうちに肌は荒れてくるようになります。

そして、ほぼ100%のお客様が、『ハダキララ』を卒業してから2ヶ月もしないうちに、また『ハダキララ』を再開するのです。

第六節 『ハダキララ』を使って1年経過（過去の肌荒れを健忘してしまう時期）

『ハダキララ』を1年間続けると何が起こるのでしょうか？

全ての方が過去の肌荒れが起こっていた時代の記憶が薄れていきます。

実際に『ハダキララ』を1年以上継続したお客様を、私は対面で何人も会ってきました。

その会話の中で、表現は人によって様々なのですが、

「肌荒れって何??？」

ということをおっしゃる方がすべてでした。

『ハダキララ』を使い始めたときの写真を見せると、
「昔がそんな肌だったなんて信じられない!!!」と驚愕しすぎて大声で叫んでしまいます。

『ハダキ拉拉』を使えば肌荒れとは無縁の生活を送れるようになります。いつしか、肌荒れを起こしていた過去の記憶も忘れてしまうのです。

でも、よくよく考えてみてください。

この状態は人間の肌の本来あるべき状態なのです。

生まれたばかりの赤ちゃんは肌荒れしますか？小学生、中学生のころは肌荒れを起こしていましたか？

肌の悩みやトラブルを抱えるようになったのは、化粧とクレンジングをしてから発生し始めたのではないのでしょうか。

化粧と肌にかかるストレスによって肌荒れは起こるのです。しかし、現代社会では様々な理由により化粧しないわけには行きません。中には化粧が好きで、化粧によってもっと美しくなる自分を好きになる人も多いと思います。

私は、化粧することを否定しません。

でも、化粧をしても、肌の健康のことを少しはいたわってあげてください。

もし、肌が疲れてきたと思ったら、『ハダキ拉拉』を使ってたっぷり肌を休ませてあげてください。それは私からのお願いです。

第六章 『ハダキララ』の各種効果を科学的見地から解説

『ハダキララ』を実際に使った使用者の方から、多くの肌改善の声が寄せられてきます。

あなたも、『ハダキララ』を一定期間ご使用になったら、以下の効果を少しでも感じることはできないのでしょうか？

- ・ 塗った直後に肌がひんやりして気持ちが良い。
- ・ 翌朝起きると、何もしなくても素肌がつるつるしている。
- ・ 肌にツヤが出てきた。
- ・ 毛穴が小さくなった気がする。
- ・ 肌荒れになりづらくなった。
- ・ 目尻の小ジワが薄くなった気がする。
- ・ 肌の水分と油分のバランスが取れてきた気がする。
- ・ 肌ツヤが良いせいか、美白に見えてきた気がする。
- ・ なんとなく肌の調子が良くなってきた気がする。
- ・ 風呂上がりの肌の乾燥が和らいだ。
- ・ メイクしたときのメイク用品からの肌への刺激を感じなくなった。
- ・ 顔全体のくすみが消えて、肌色がワントーン明るくなった。
- ・ なんとなく肌が若返った気がする。
- ・ 鼻の黒ずみが減った。
- ・ 肌のザラザラがなくなった。
- ・ 夜更かししても肌が荒れなくなった。
- ・ チョコレートを食べてもニキビができなくなった。

実は、これらの効果は、実際に『ハダキララ』をモニターお試しした多くの方から寄せられた喜びのコメントなのです。

先述の「第六節 『ハダキララ』が肌に与える効果」の章で、ハダキララが肌に与える効果について記しましたが、それはあくまで医学的見地からまとめた効果です。

お客様が感じる肌の変化はまたそれとは違った表現で表すことができます。

お客様が感じた肌の変化にはきちんとした理由があり、その理由を科学的に解説していきたいと思います。

第一節 ツヤ改善

美肌菌によって肌の自家保湿膜が再生されるので、ツヤが改善されるのです。

実は、このツヤというのは、後述の美白・透明感と話がつながっていきます。

第二節 ニキビ、吹き出物改善

美肌菌が増えたことによって、ニキビの原因となるアクネ菌の生育が阻害されたからだと思います。

皮膚上にはたくさんの皮膚常在菌が住んでいますが、それらの菌が育つ養分は皮膚上の細胞の死骸や皮膚から分泌される油分です。その養分の量は限られています。

もし、肌に良い美肌菌が増えて、養分を先に食べてしまえば、アク

ネ菌は養分が少なくなっていて、量が減るのです。

そして、アクネの量が減れば、ニキビや吹き出物が改善するのです。

第三節 ハリ改善

ハリの改善は、美肌菌によるものではないと思います。美肌菌には直接的にはハ리를改善する要素はありません。

ハリの改善は、むしろ『ハダキララ』に含まれる「ヒト骨髓由来幹細胞上清液」の成分によるだと思います。

幹細胞や幹細胞エキ스는豚由来だったり、馬由来だったり、植物由来だったりたくさんの種類がありますが、ヒト＝人間由来のものが一番人間に近いので、一番効果を發揮できるわけです。

また、ヒト由来幹細胞の中でも、脂肪由来と骨髓由来などがありますが、骨髓由来がその中でもっとも成長因子の効力が高いと言われています。

だから、短期間でこのような効果が出るのも納得です。

第四節 毛穴改善

毛穴が改善される理由は簡単です。それは、美肌菌によって油分の分泌量が減ったからです。

実は、毛穴の大きさは油分の分泌量に比例して大きくなるのです。

だから、油分の分泌量が減れば、必然的に毛穴も小さくなるのです。

第五節 美白、透明感アップ

美白と透明感は近い効果です。ここで言う美白というのは、白いファンデーションを塗った後の人工的な美白ではなく、肌自身から出る自然な白さ・透明感を指しています。

美肌菌による「美白」というのは、実はキメが改善されたためによるものです。

肌のキメが改善されれば、その分、肌がきれいに光を乱反射するので、目の錯覚によって肌が白く見えるのです。

第六節 赤み改善

赤みというのは、炎症のことです。肌を強くこすったあとや、鼻をかみすぎたあと、肌が赤くなりますよね？肌の赤みというのはそれと同じことです。

「炎症」というと、傷や病気っぽいイメージがあると思いますが、そのとおりです。

多くの人は過剰な洗顔やクレンジングによって肌を傷つけてしまい、肌に炎症を起こしているのです。

『ハダキアラ』によって炎症が治まるので、自然と赤みが改善するのです。

第七節 アトピー改善

アトピー改善は、皮膚常在菌の観点から説明がつきます。

アトピー皮膚炎を患っている方は、皮膚が傷んでいるわけなので皮膚からアルカリ性の体液が分泌されるのです。そのアルカリ性の体液を好んでいるのは黄色ブドウ球菌です。黄色ブドウ球菌が増えると、黄色ブドウ球菌から分泌される毒素が肌を刺激して、どんどん肌が傷んでいくのです。

しかし、そこに美肌菌が大量にやってくると状況が違ってきます。

細菌全般に言える特徴なのですが、菌が増えるときに、自分の周りにコロニーを作るのです。コロニーというのは、他の菌を寄せ付けないシールドのようなもので、そのシールドの領域近くまでは他の菌が一切生えることができません。

美肌菌が増えると、美肌菌のコロニーの障地が増えるので、黄色ブドウ球菌がどんどん行き場を失うのです。

そして、肌には美肌菌だけが残って、黄色ブドウ球菌がいなくなった結果、黄色ブドウ球菌から分泌される毒素もなくなって、アトピー症状が解消するのです。

ここまでお読みいただき、
誠にありがとうございました。

もっともっとたくさんの内容を掲載したいのですが、
紙面の関係により前編はここまでとなります。

ここから先の内容は、後編にて公開させていただきます。

本誌の後編については、
『ハダキララ』を1ヶ月以上ご継続いただいた
会員様にのみ無料で提供しております。

もし、興味がございましたら、
ぜひ、『ハダキララ』を1ヶ月以上
継続してご使用ください。

第七章 『ハダキララ』を使いながら今後のスキンケアとの向き合い方

『ハダキララ』を使いながら、今後のスキンケアをどうして行けば良いでしょうか。

それについてご説明します。

第一節 化粧はどうすれば良いの？

前編の内容はここまでとなります。ここからの内容は後編をご覧ください。目次だけ掲載させていただきます。

第二節 日焼け止めはどうすれば良いの？

前編の内容はここまでとなります。ここからの内容は後編をご覧ください。目次だけ掲載させていただきます。

第三節 クレンジングはどうすれば良いの？

前編の内容はここまでとなります。ここからの内容は後編をご覧ください。目次だけ掲載させていただきます。

第四節 洗顔はどうすれば良いの？

前編の内容はここまでとなります。ここからの内容は後編をご覧ください。目次だけ掲載させていただきます。

第五節 枕カバーは頻繁に取り替えるべき

前編の内容はここまでとなります。ここからの内容は後編をご覧ください。目次だけ掲載させていただきます。

第八章 明日からすぐ効果があらわれるスキンケアの新常識

前編の内容はここまでとなります。ここからの内容は後編をご覧ください。目次だけ掲載させていただきます。

第一節 ローションパックの効果は？

第二節 ニキビの本当の原因はなんですか？

第三節 アクネ菌は悪い菌ですか？

第四節 ニキビには、せっけん洗顔が良い？

第五節 鼻の角栓パックはやっても大丈夫ですか？

第六節 ホットタオルで新陳代謝が高まりますか？

第七節 天然成分の入った化粧品は肌に良いですか？

第八節 美白化粧品を使い続ければ、効果はありますか？

第九節 手のひらで肌をパッティングすると肌は生き返りますか？

第十節 ストレスで原因で肌が荒れるって本当ですか？

第十一節 長くお風呂に入ると美肌になりますか？

第十二節 肌の乾燥にはどんな原因がありますか？



ハッピーライフバイオ
HappyLifeBio

～素肌美を追求する女性のための専門ブランド～

株式会社 HappyLifeBio 公式サイト

www.happylifebio.co.jp

